

図220 SR04 出土遺物 3

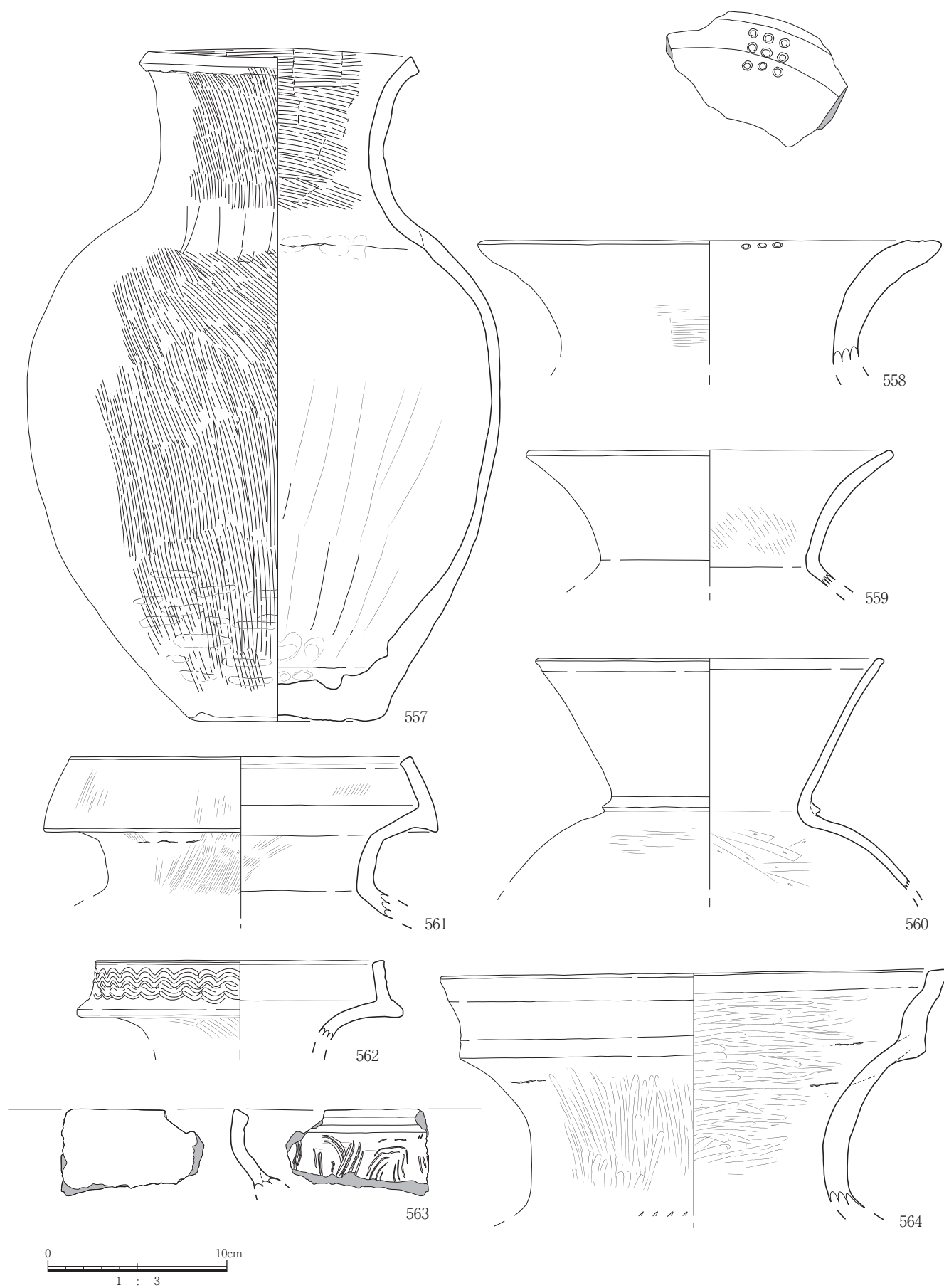


図221 SR04 出土遺物 4



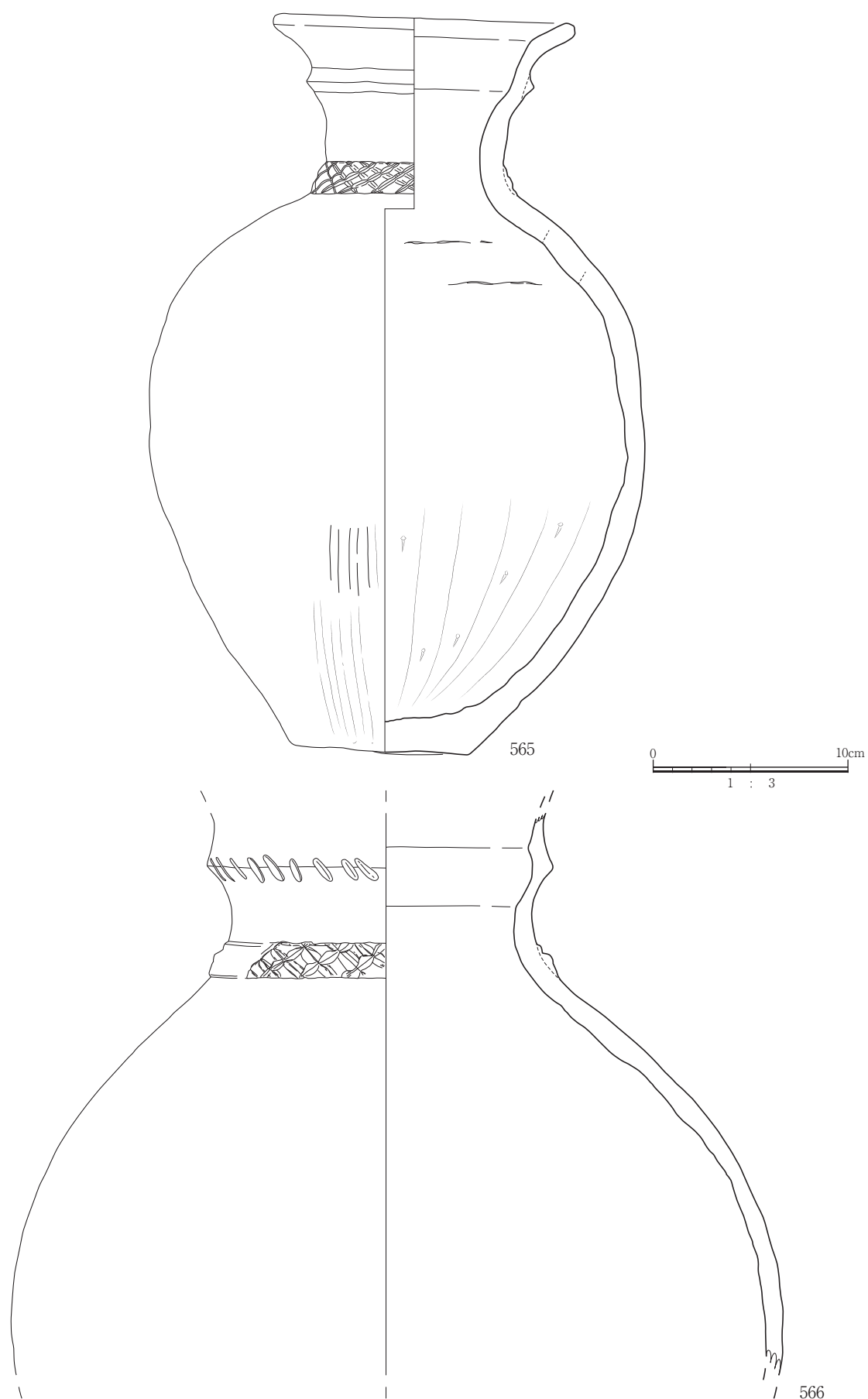


図222 SR04 出土遺物 5

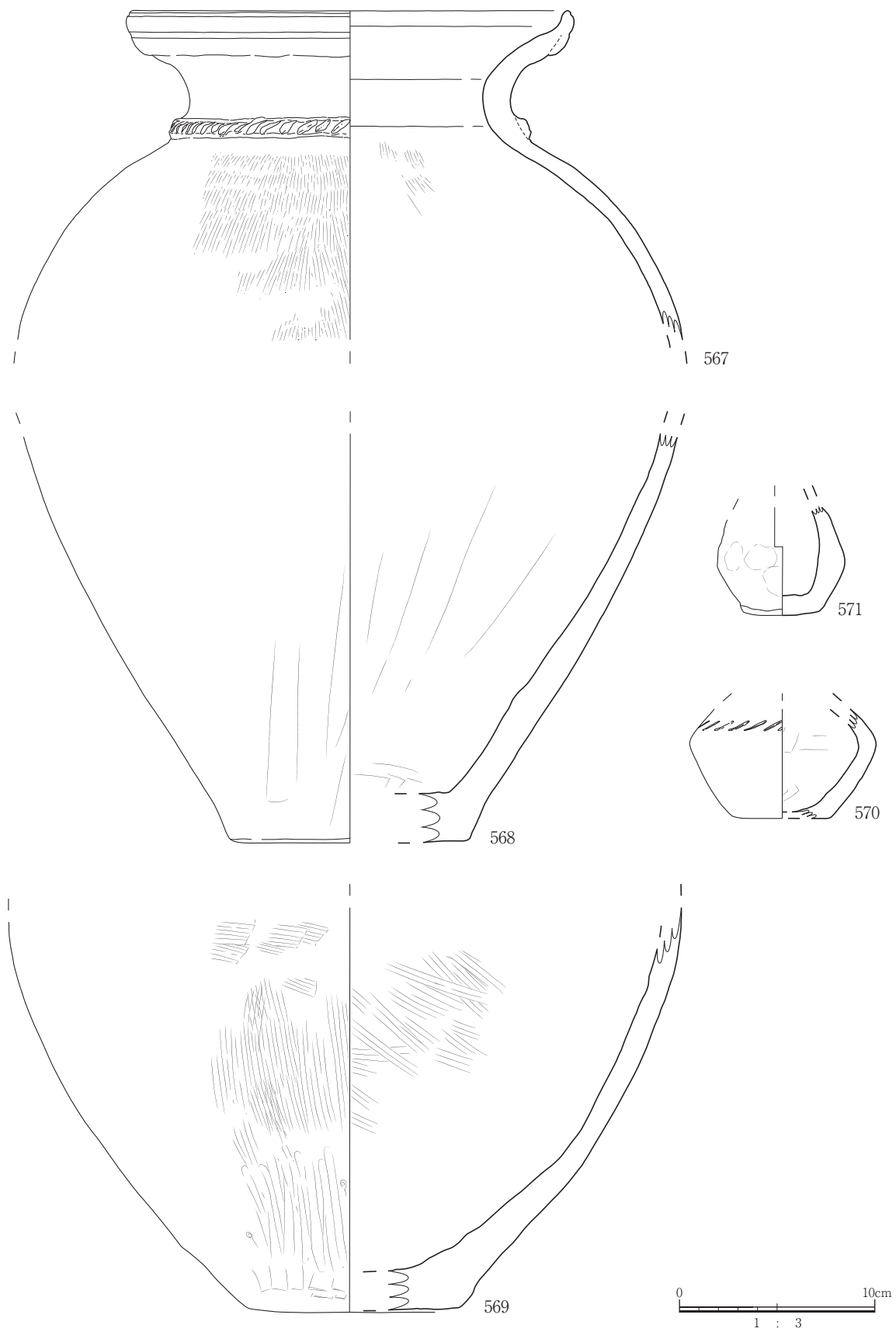


図223 SR04 出土遺物 6

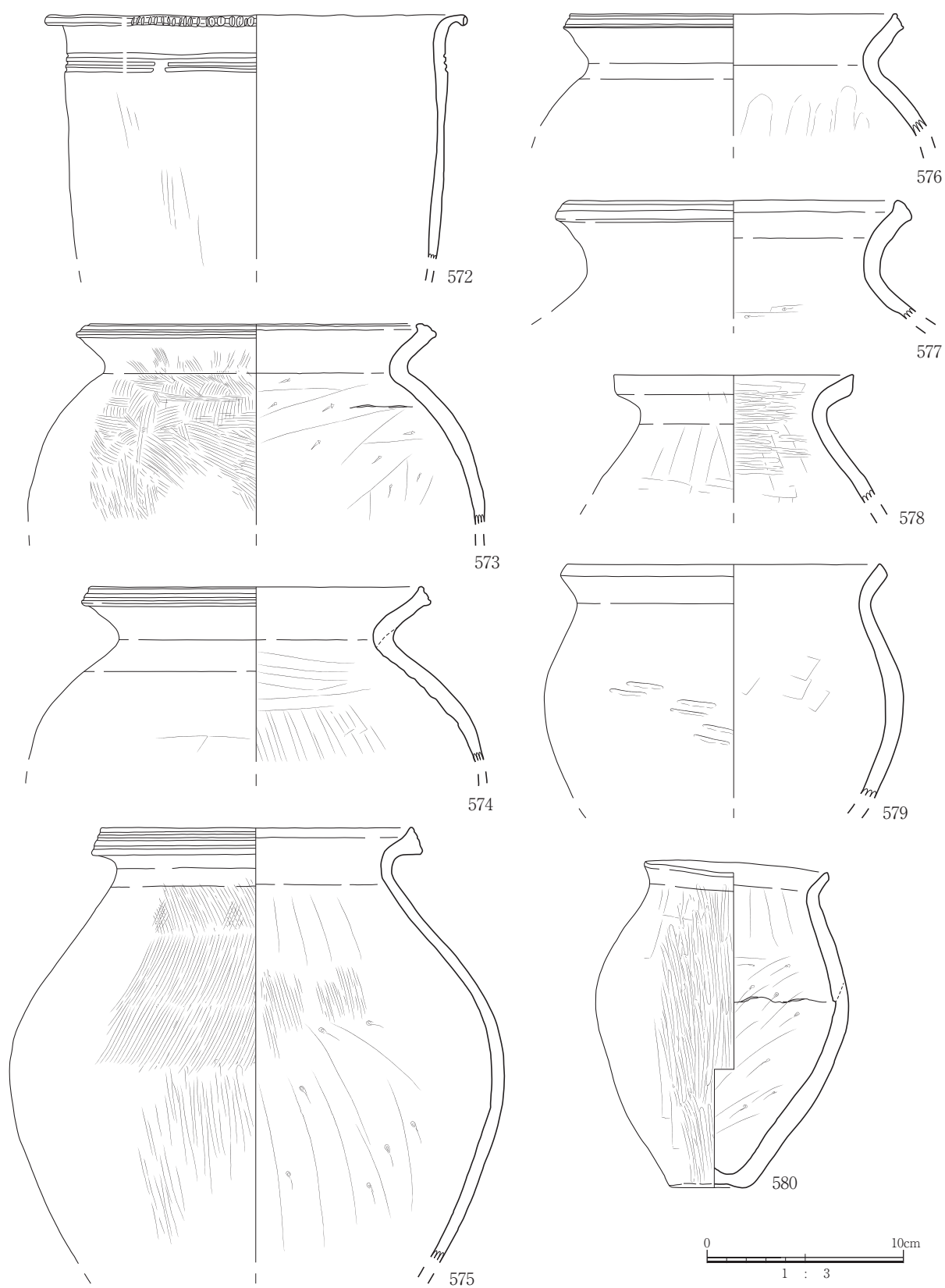


图224 SR04 出土遺物 7

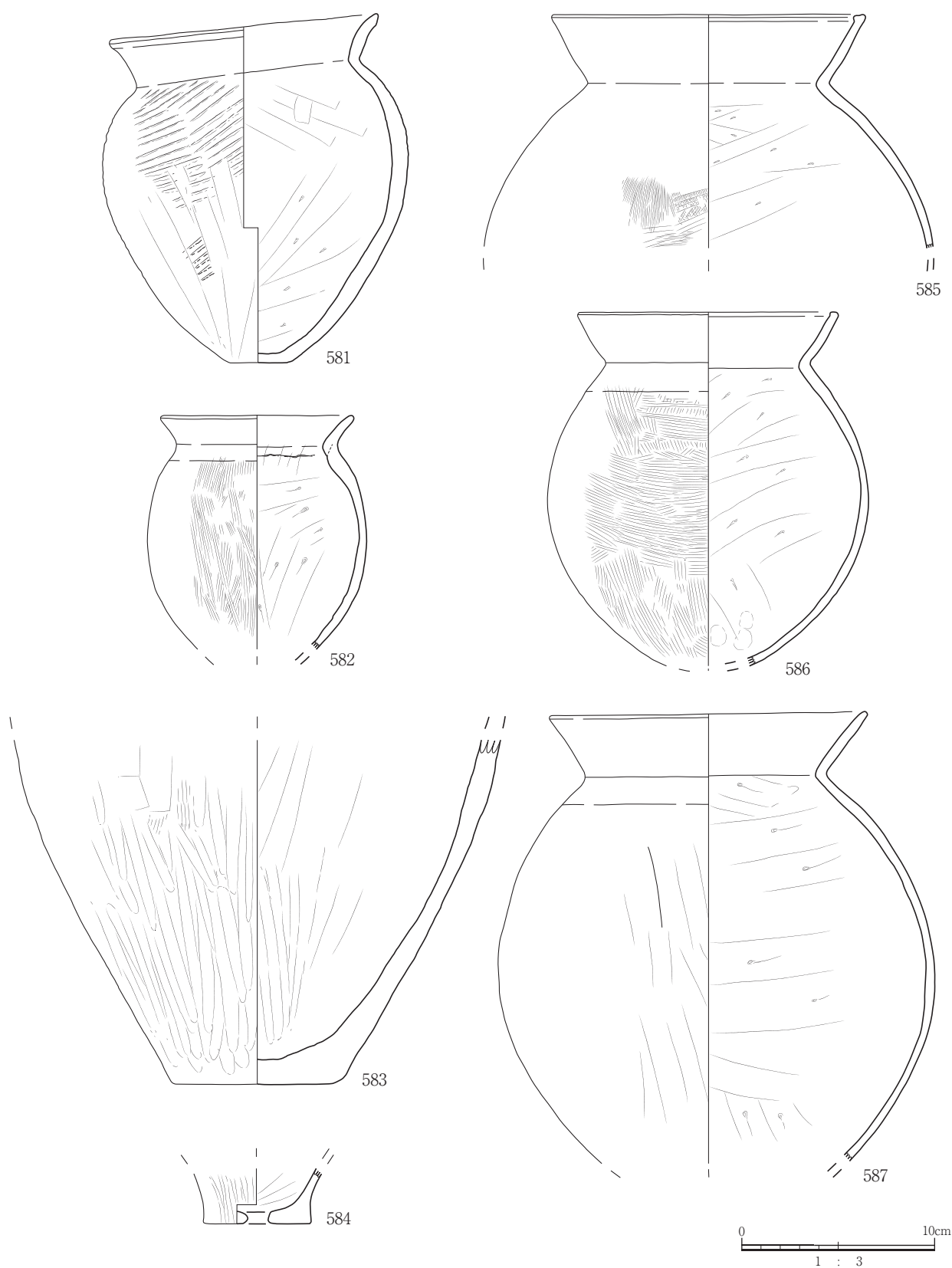


図225 SR04 出土遺物 8

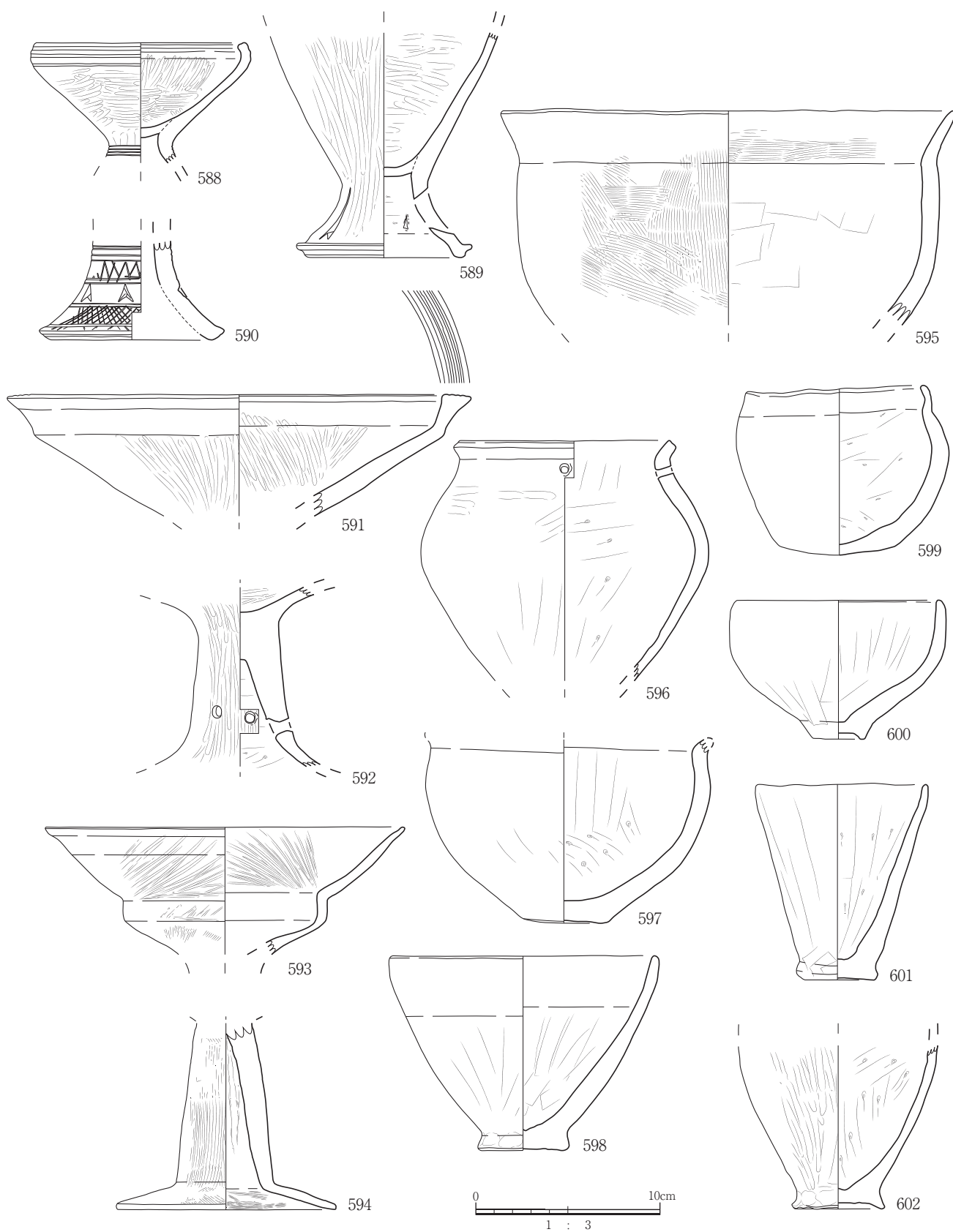


图226 SR04 出土遺物 9

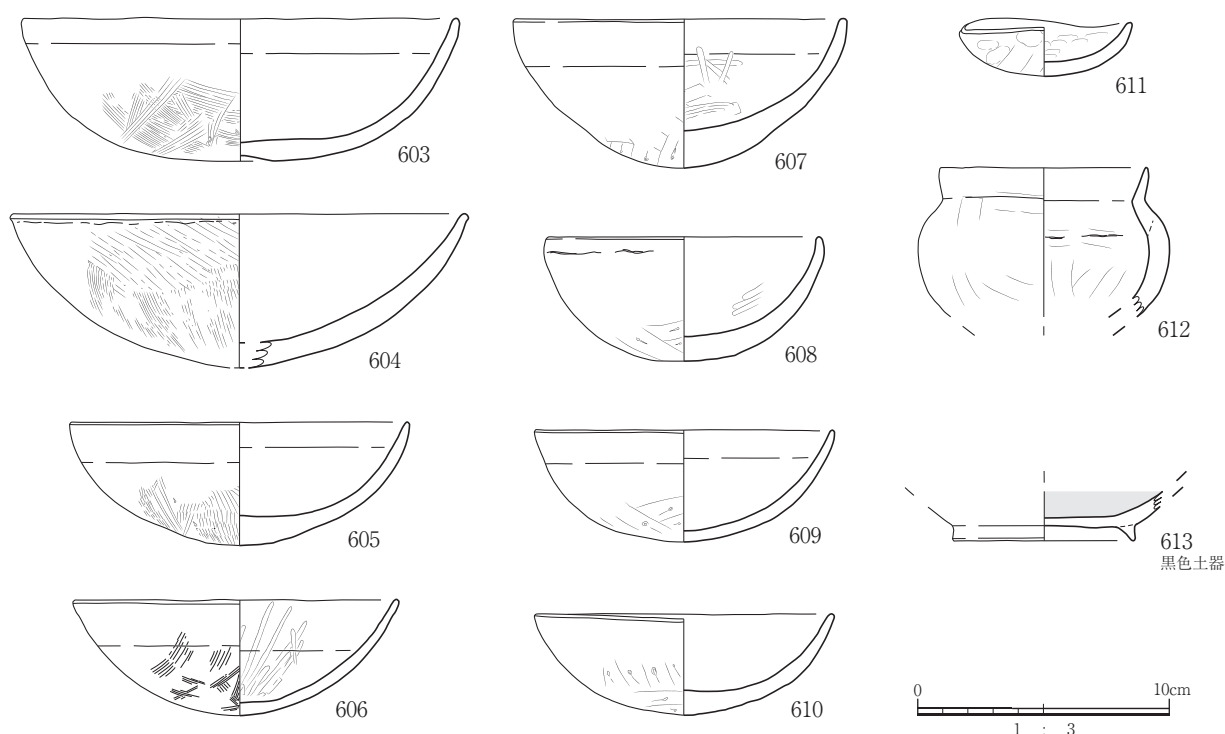


図227 SR04 出土遺物 10

状になると推定される。断面はA面側が緩やかな山形、B面側の一部がやや窪む形状で、窪みには自然面が残るため、原石(川原石)か原石に近い状態のものが素材と思われる。刃部は研磨により研ぎ出されるが、敲打により潰れている。背部は敲打で作出される。体部のA面は一部に敲打痕を残し、残りはほぼ研磨痕で占められるため、研磨工程の前に敲打がおこなわれているとみられる。体部B面は窪みを除き研磨が施される。紐孔は回転穿孔法による。616はサヌカイト製のスクレイパーで、A面左上面には自然面が残る。石理に沿って剥ぎ取られた剥片を素材とし、その末端を刃部とする。刃部には両面からの加工が施されている。617はサヌカイト製の凹基式石鏃である。618はサヌカイト製石鏃の一部だろう。サヌカイト製の619は上下に敲打痕が認められるため石核と推測される。幅や厚さから、もとは石庖丁であった可能性もある。620は砂岩製の砥石で下部を欠損する。擦痕は3面に残る。

(3)時期 585～587から古墳時代前期(I-2期)の埋没と考えられる。613は最上面の窪地等に堆積する層に伴うものだろう。

## 5 SR05 (4区-SR20)\_浅谷1-A

(1)遺構(図229～235) SR05は北東へむかって緩やかに蛇行しながら伸びる流路で、最終的な長軸方向はN-47° -Eで、最大深度は0.50mである。埋土は複数層ある。埋土の土層断面では部分的に溝状の流れがみられるため、SR05は時間をかけて埋没したと推測される。

(2)遺物(図236～247) 縄文土器片36点、弥生土器片9,961点、土製品3点、石器46点と木質遺物

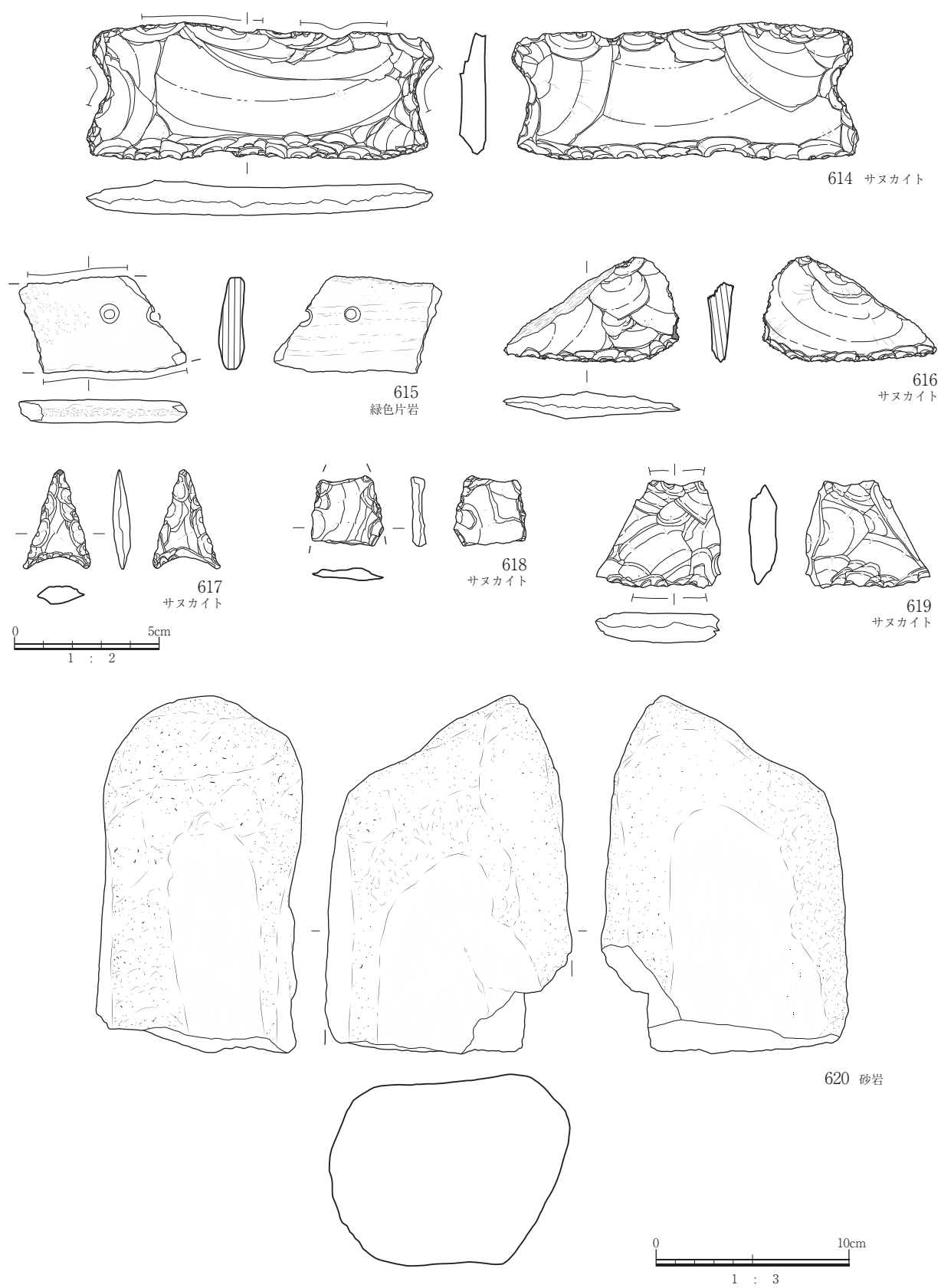


図228 SR04 出土遺物 11



が出土した。このうち木質遺物を除く100点を図化した。

**土器** 621～659は弥生土器壺である。621は頸部に5条の沈線文を巡らせ、短い口縁部を有する。内外面ともにミガキは顕著である。622は口縁部内面に、623・624は頸胴部境に突帯をもつ。625は口縁部内面に2条の刻目文突帯文を巡らせる。626の口縁部内面の刻目文突帯は渦巻状を呈している。627は頸部下位に2条の刻目文突帯が認められる。特に外面のミガキは密におこなわれている。628は胴部最大径付近の削り出し状の沈線文3条の上に2個1組の円形浮文が付されている。629は小型の広口壺と推測される。630・631・636は短頸広口壺で、うち630・631は拡張する口縁端部に明瞭な凹線文を有する。632～634は無頸壺で、632の口縁端部はやや大きく拡張する。634の外面口縁部付近には斜格子文と波状文が描かれている。637は算盤玉状を呈する胴部で最大径付近には明瞭な凹線文をもつ。639～641は口縁部が外反する広口壺で口縁端部に凹線文を有する。642～647・649～654は口縁部と頸部の境が明瞭になっている広口壺である。647の口縁部上面には3段の竹管文が施される。648は長頸壺で頸胴部境の屈曲は弱い。655の口縁部上面、下面、端部にはハケ原体によると思われる刺突文が認められる。656は複合口縁壺で口縁部外面の文様は斜格子文である。胴部上位とした657には山形の浮文状の文様がある。658の外面には弧状や鉤状の記号、または絵画が認められる。659の外面の文様は、数条が並行する渦巻状となっている。660～673は弥生土器甕である。660は如意形口縁をもつ。661は突帯文系である。663～667は逆L字状口縁を有し、うち664～667の頸部直下には多条の沈線文が認められる。668・670はヨコナデにより口頸部境が強く屈曲し、やや拡張する口縁端部外面に凹線文をもつ。669は強く屈曲する口頸部境から外に向かって口縁部が伸び、底部が上げ底になるタイプである。671～673は口頸部境の屈曲が弱い。671の口縁端部には凹線文が残る。674～689は弥生土器高杯である。674がワイングラス状の杯部をもち、脚部には沈線文と凹線文で画されて2段の矢羽根型透孔が巡る。下段には透孔の間に矢羽根の文様も施される。675・676の口縁部は外に拡張する。677は杯部の屈曲から外反して口縁部が伸びる。678～683は脚端部などに凹線文を巡らせ、脚部に矢羽根形透孔を有する。684・685は拡張する脚端部、または脚部下位に凹線文を有する。687は高杯の脚部としたが弥生土器支脚の可能性もある。688・689には円形透孔が穿たれる。690～704は弥生土器鉢である。690はヨコナデによる口頸部境の明瞭な屈曲と口縁端部の凹線文を伴う。691の口頸部境の屈曲は弱い。693～697は胴部から口縁部にかけてやや内湾し、底部が平底のタイプである。699は台付鉢の脚部だろう。700～702はボウル状の鉢である。705～707は弥生土器蓋である。708は未貫通の孔をもつ。弥生土器甕または壺の胴部を紡錘車に転用しようとしたものだろう。

**石器** 709は灰色を呈する安山岩製の石庖丁で、平面形は孤背孤刃形である。2孔の紐孔は回転穿孔法による。体部のほぼ全面に丁寧な研磨が施されるが、それ以上に使用に伴うと推測される摩耗が全体に及ぶ。B面右側の剥離面や背部については平滑だが、研磨ではなく摩耗とみられる。710は濃緑色を呈する緑色片岩製石庖丁である。B面が比較的平坦であるため、素材は分割した礫と推測される。窪んでいる箇所を除いて、研磨は丁寧におこなわれている。刃部、背部ともに研磨で形成されている。紐孔は1孔で敲打後回転穿孔法による。711は濃緑色を呈する緑色片岩製の

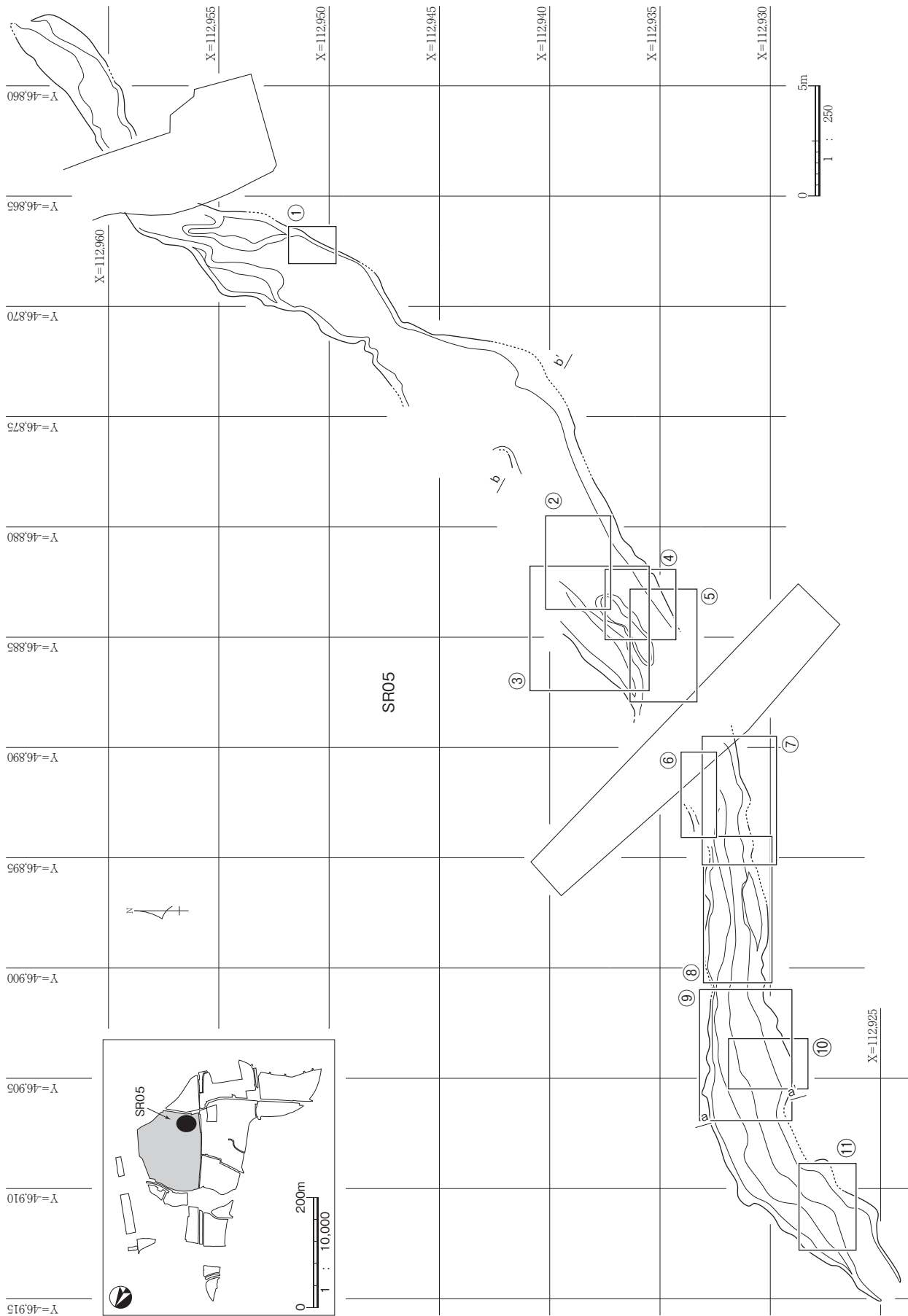


図229 SR05 平面

弥生時代～古墳時代前期の遺構と遺物

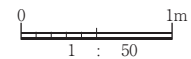
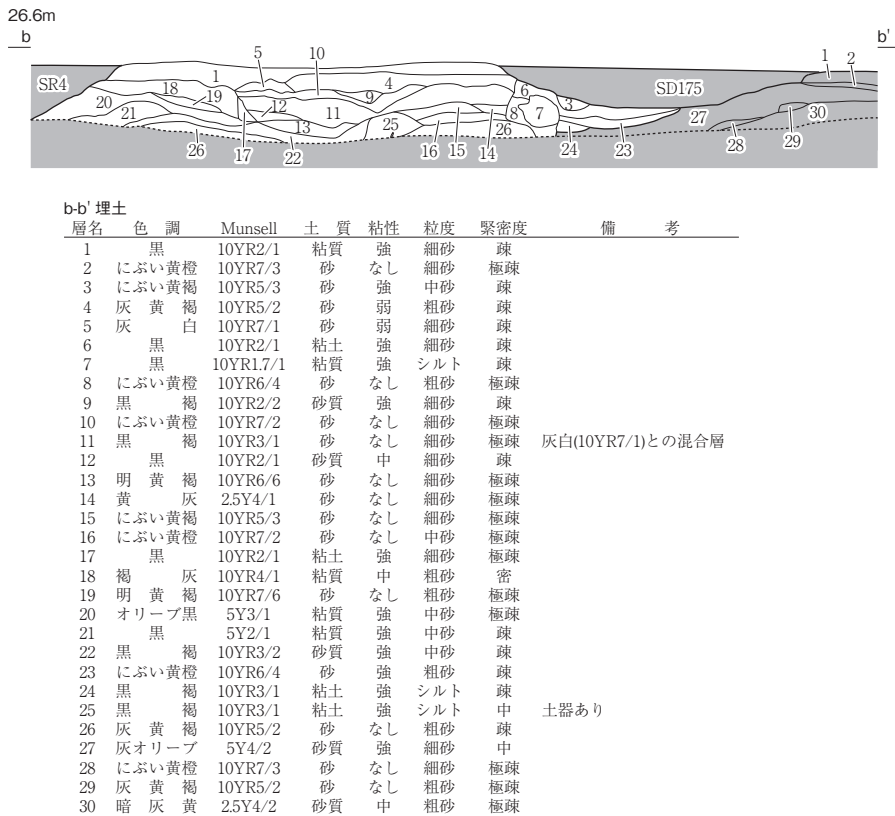
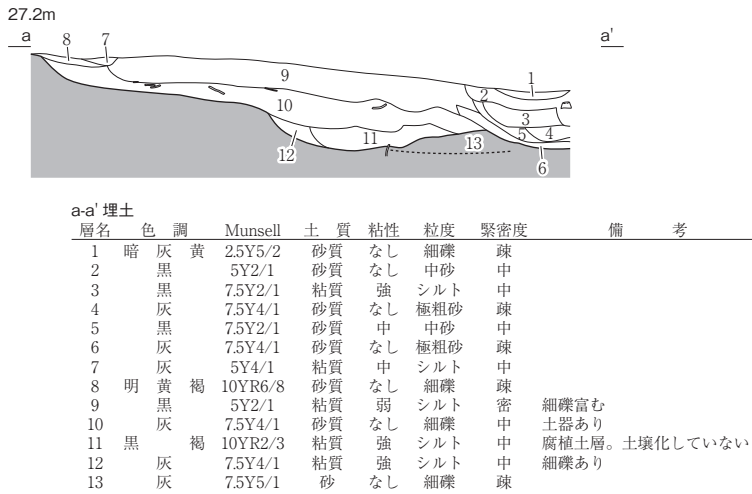


図230 SR05 断面

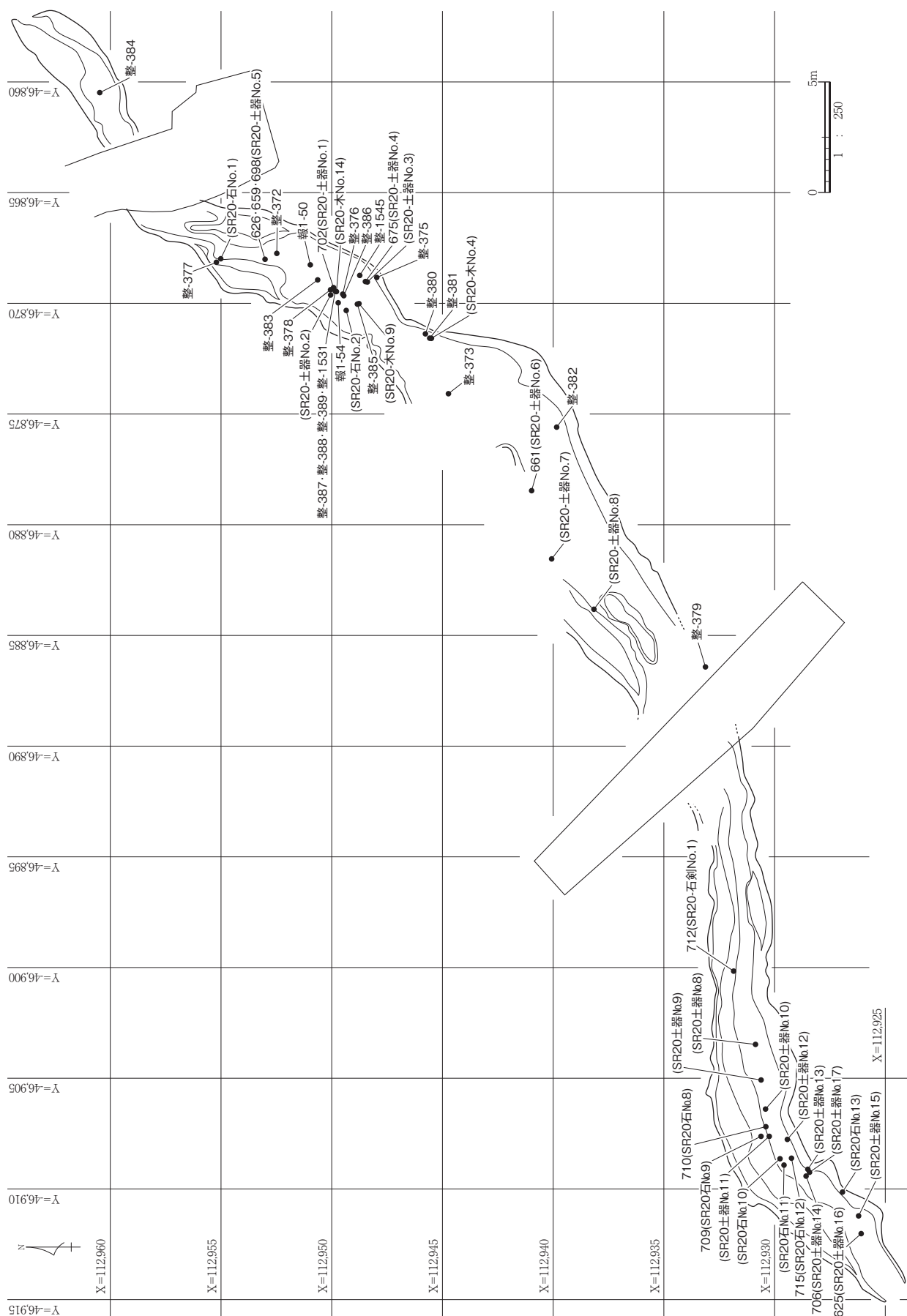


図231 SR05遺物出土状況 1

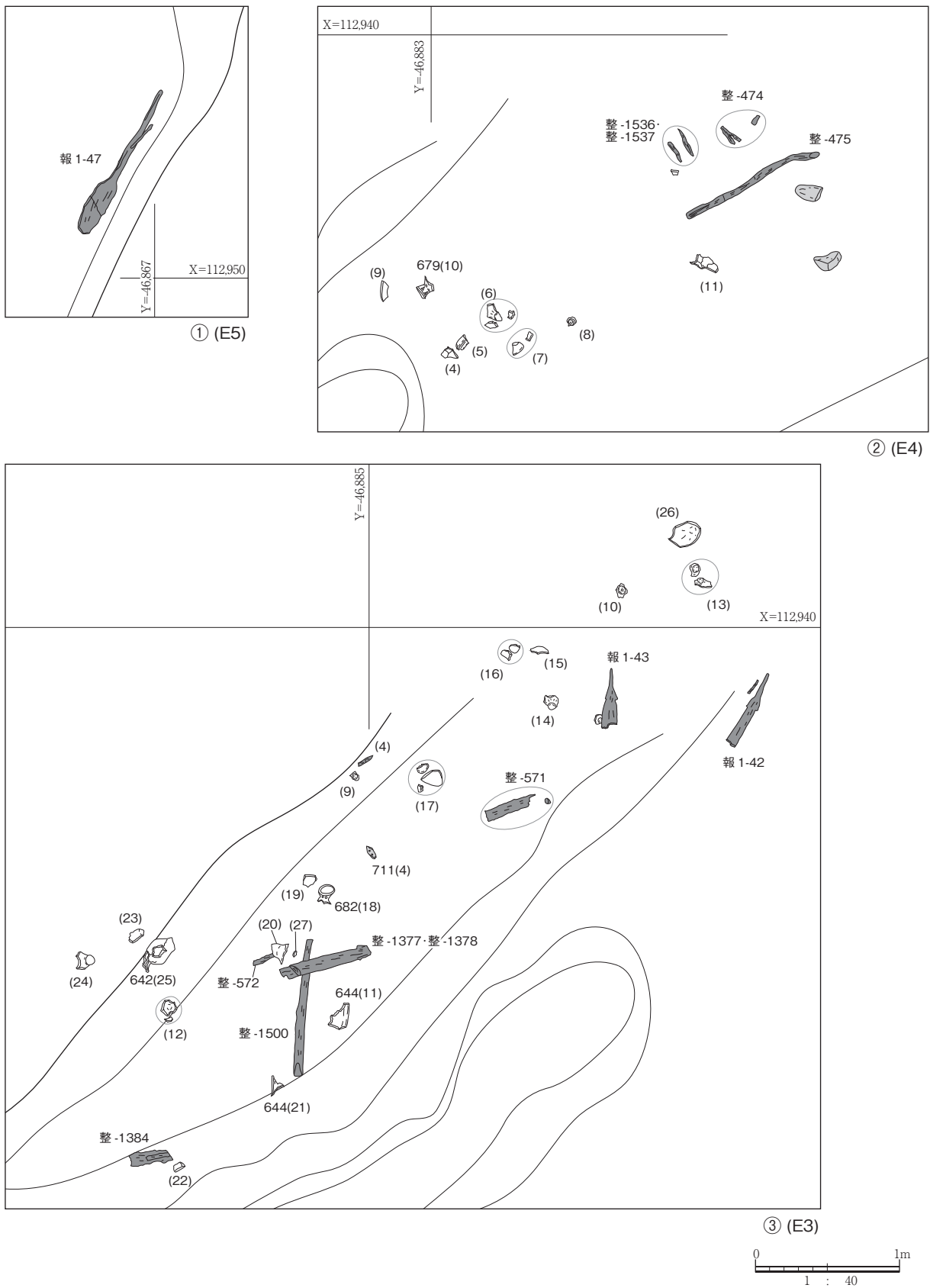
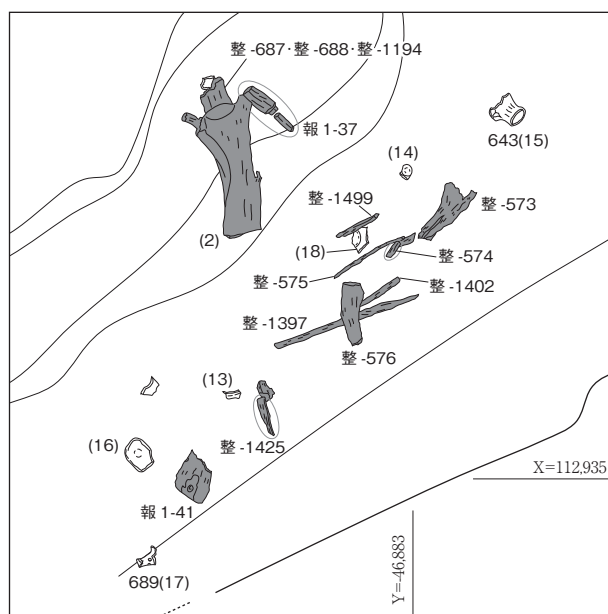
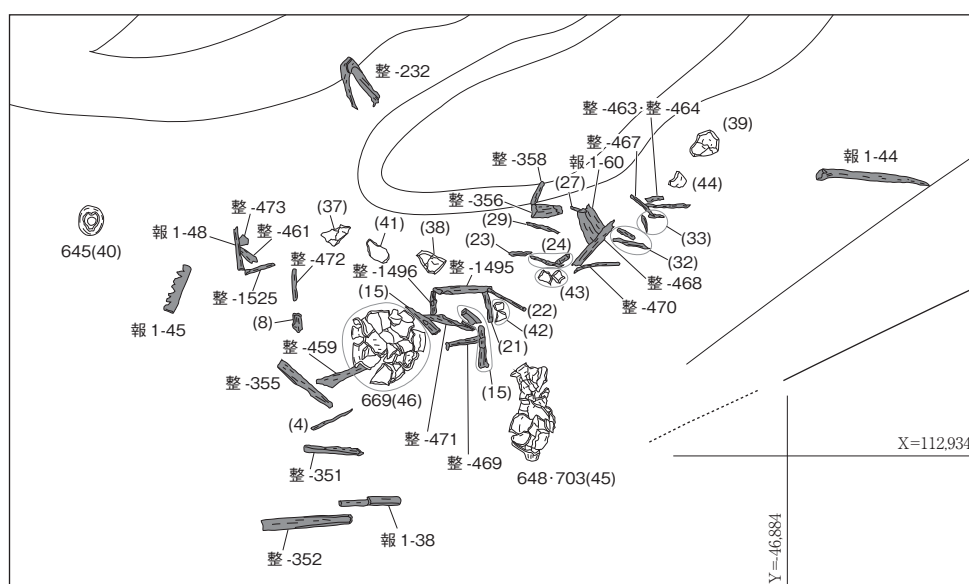


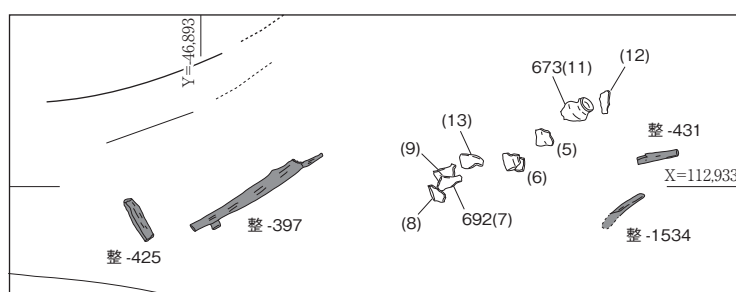
図232 SR05 遺物出土状況 2



④ (E2)



⑤ (E1)



⑥ (E7)

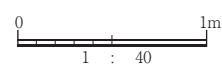
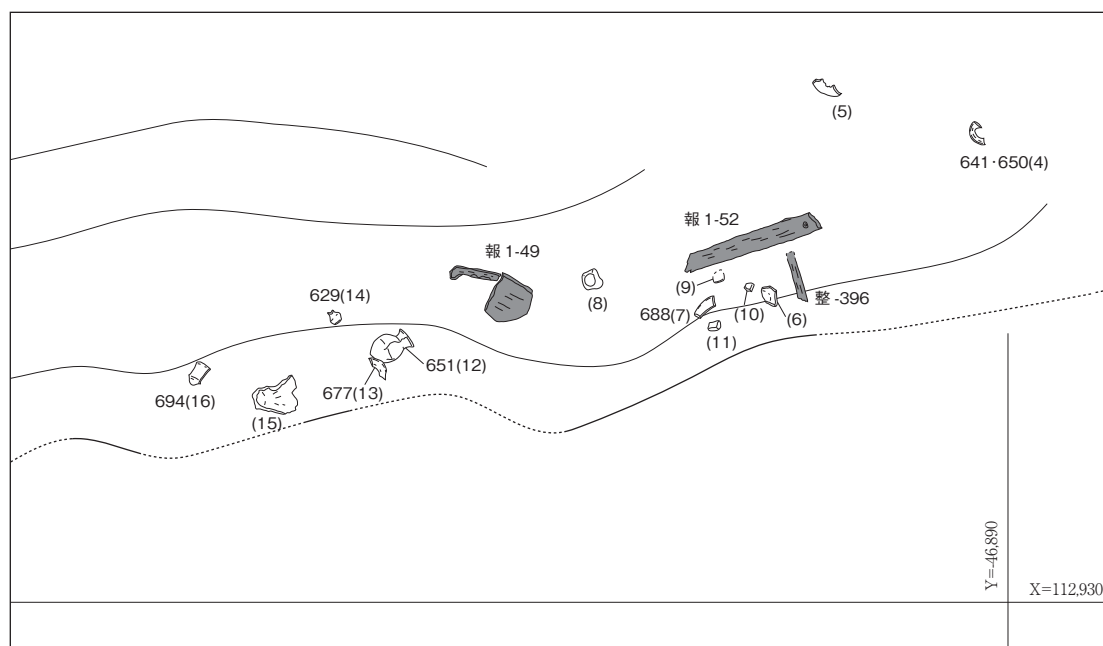
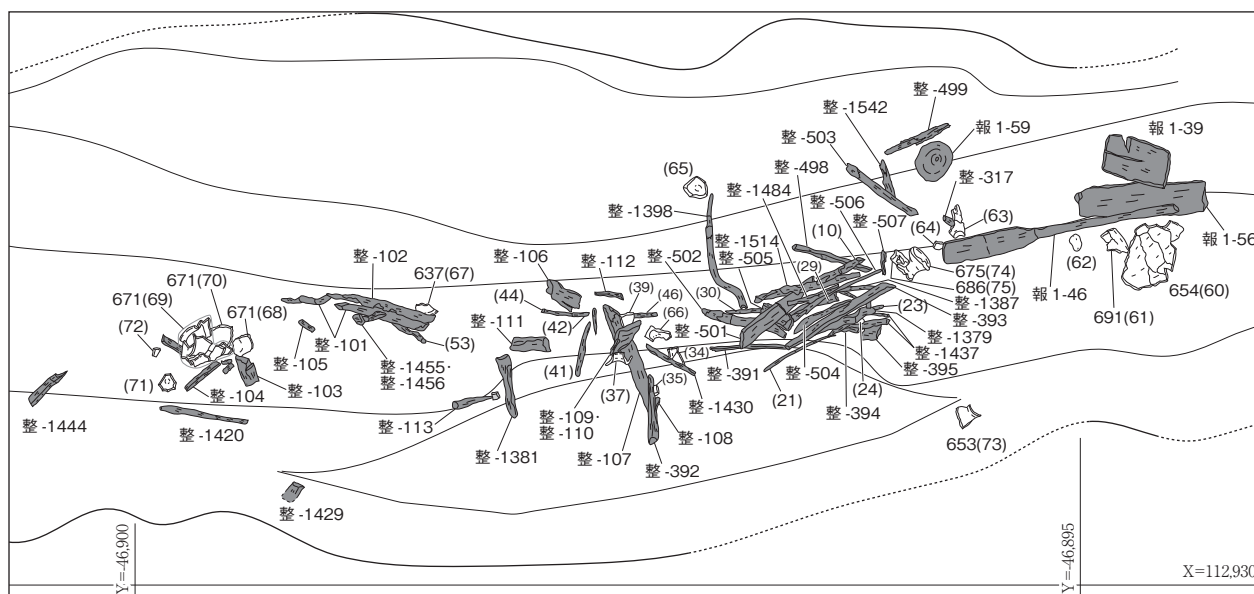


図233 SR05 遺物出土状況 3



⑦ (E6)



⑧ (E8)

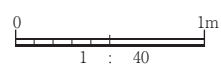
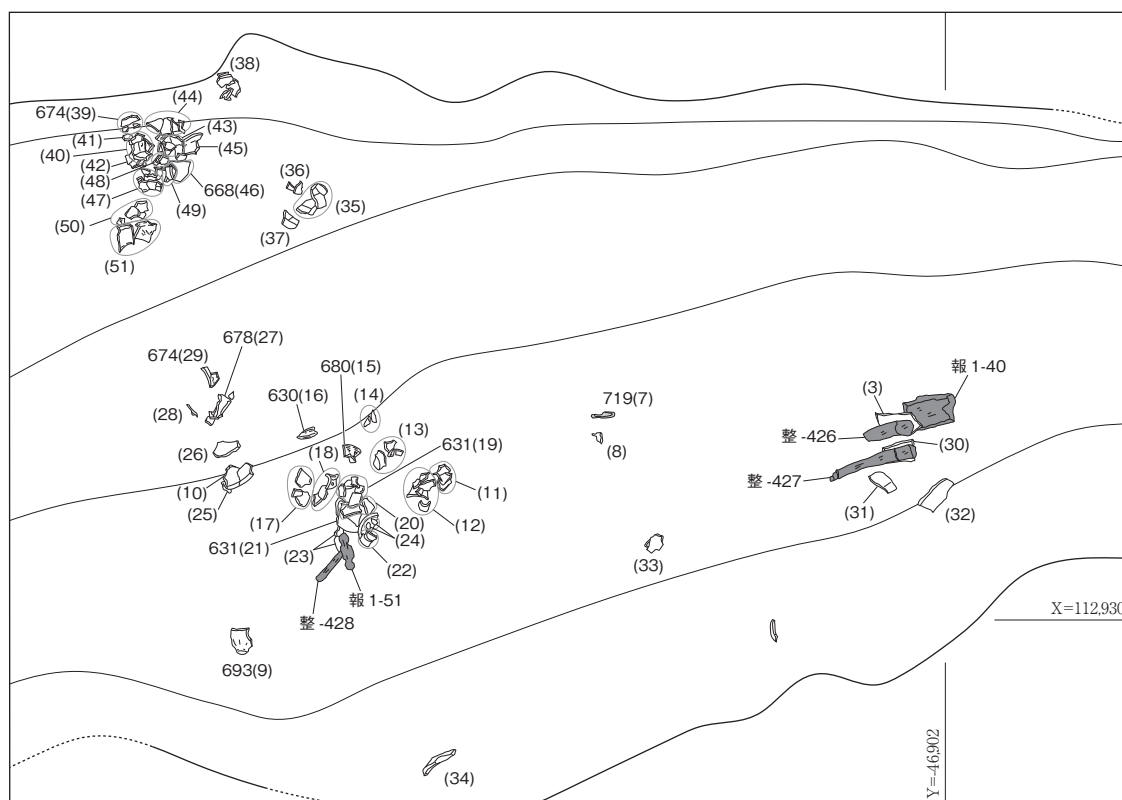
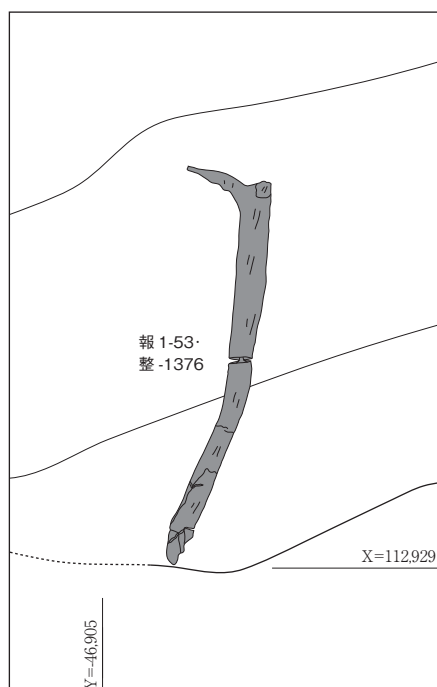


図234 SR05 遺物出土状況 4

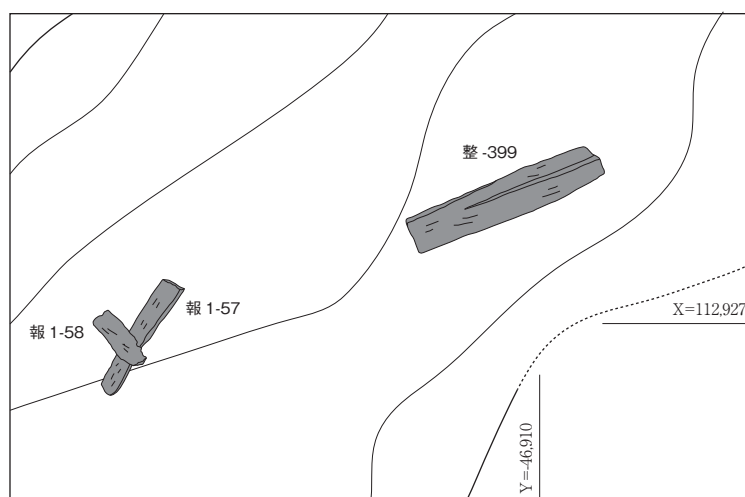




⑨ (E9)



⑩ (N10)



⑪ (N11)

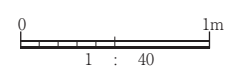


図235 SR05 遺物出土状況 5

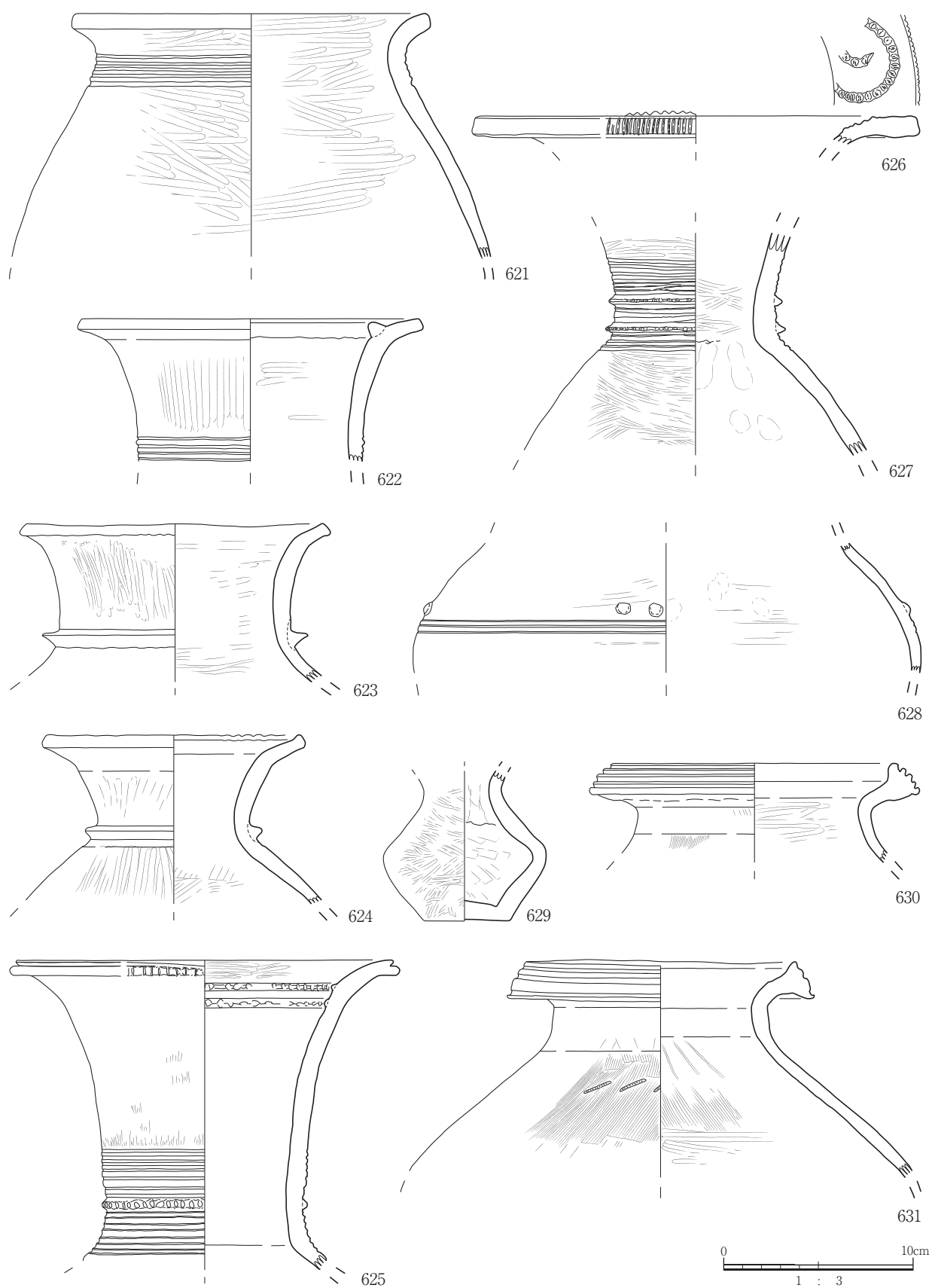


図236 SR05 出土遺物 1

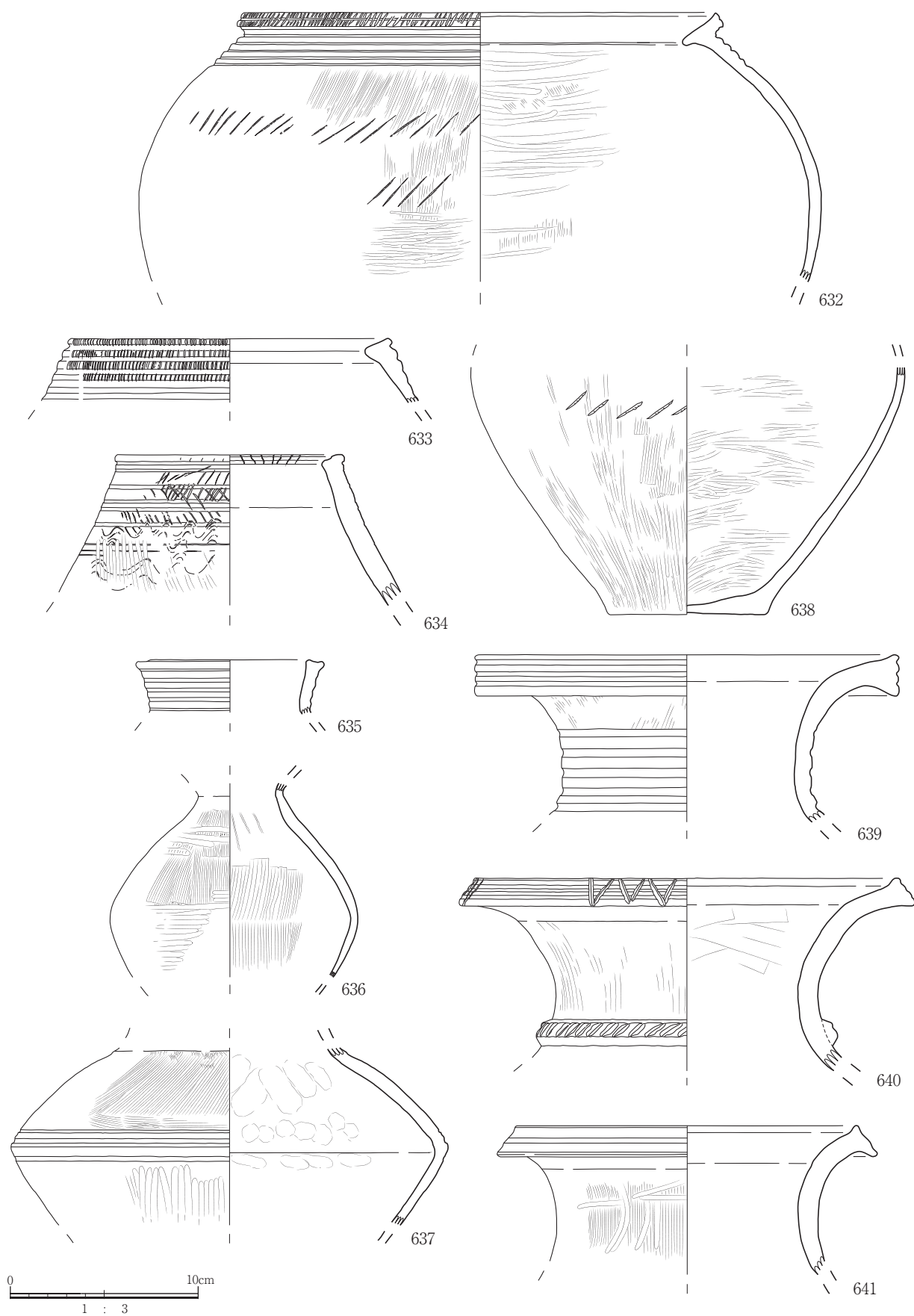


図237 SR05 出土遺物 2

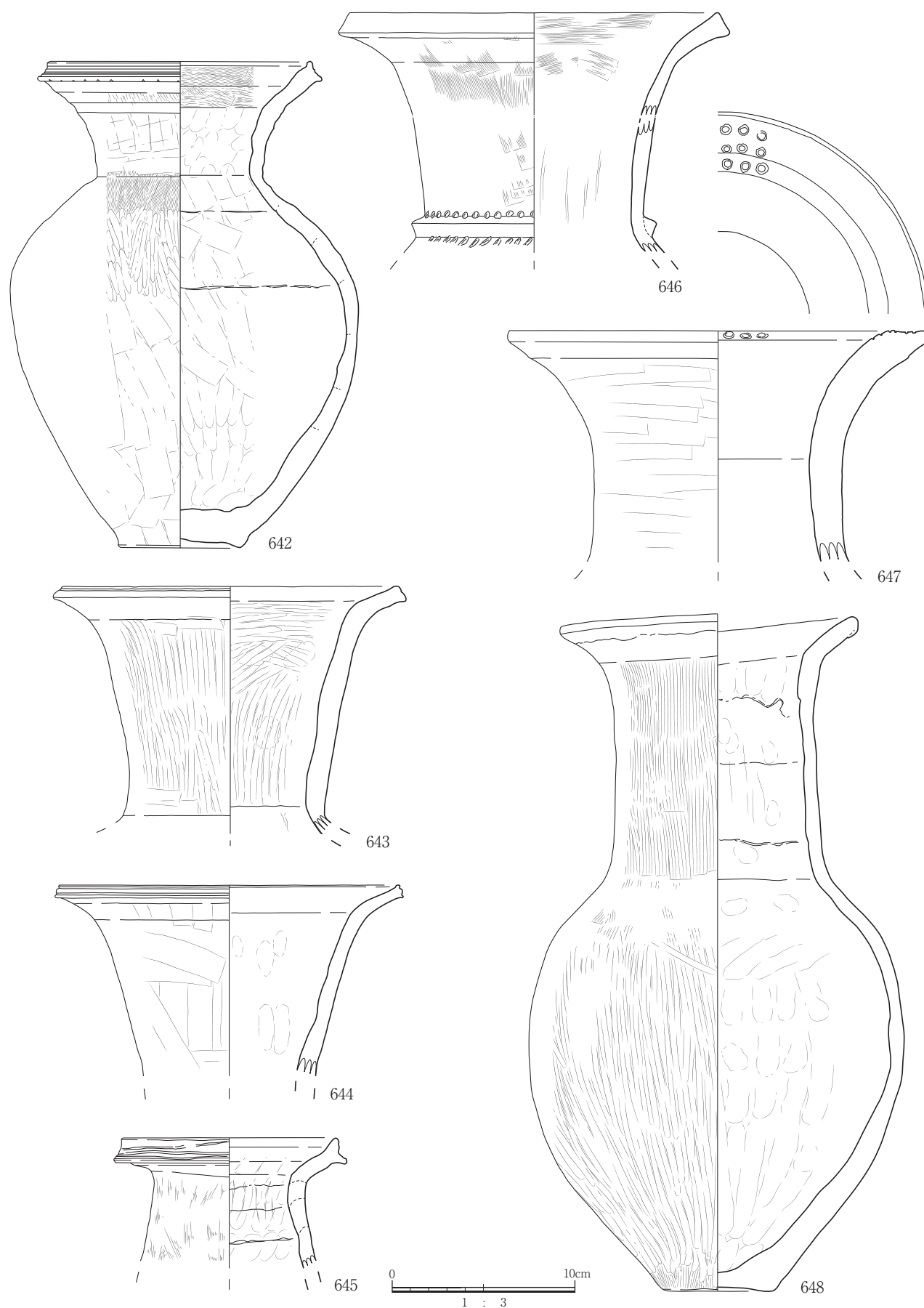


図238 SR05 出土遺物 3

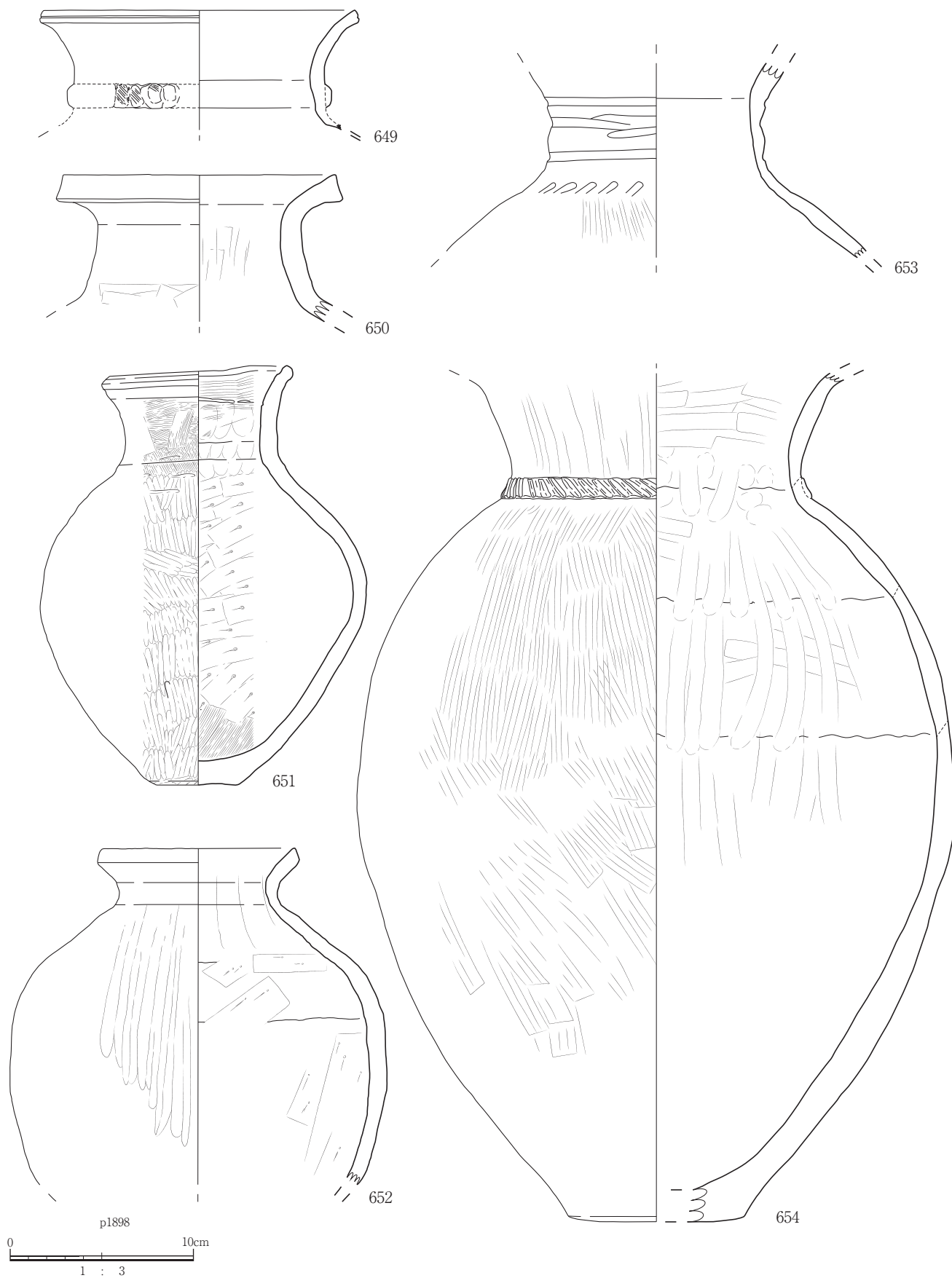


図239 SR05 出土遺物 4

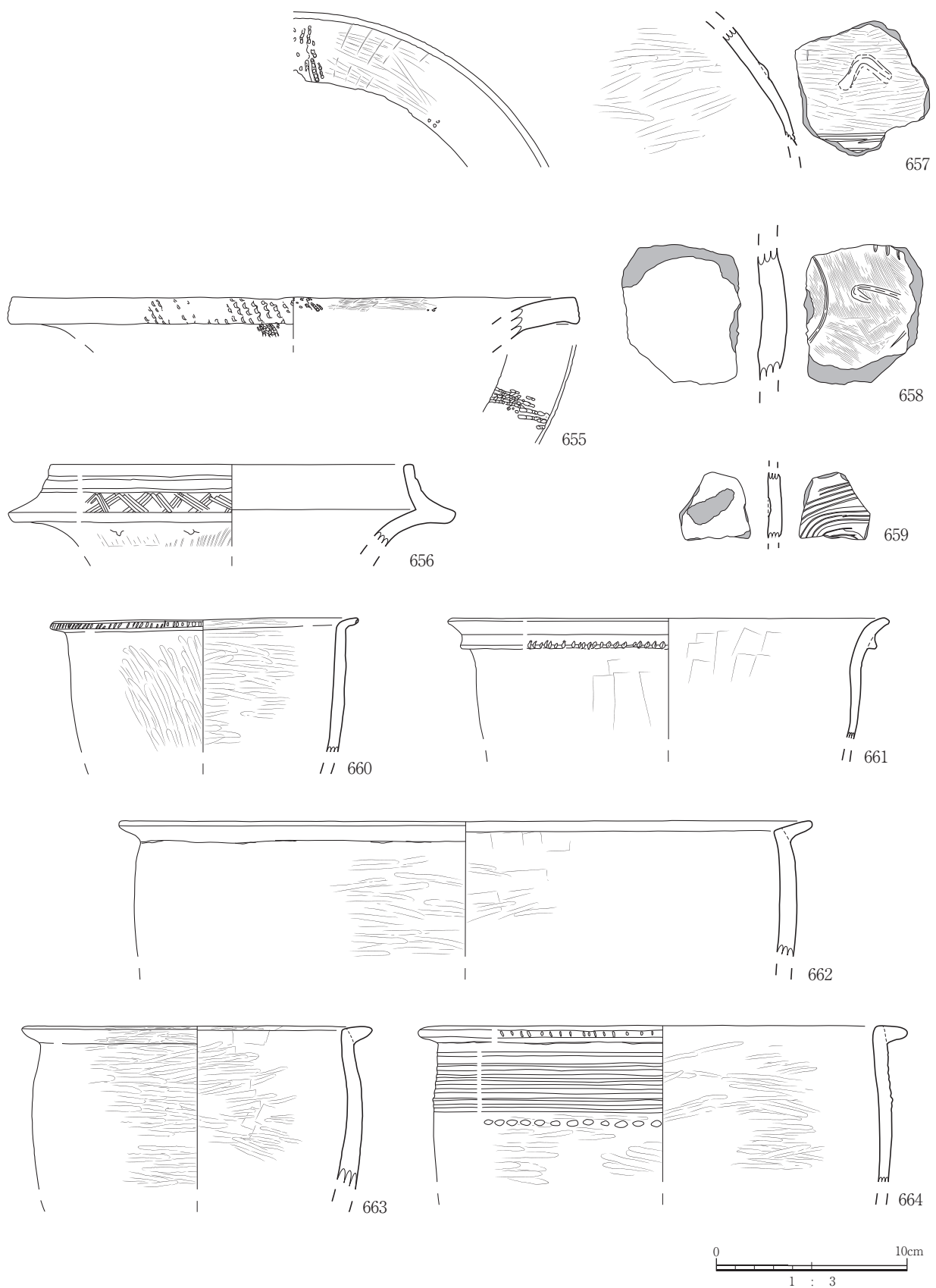


図240 SR05 出土遺物 5

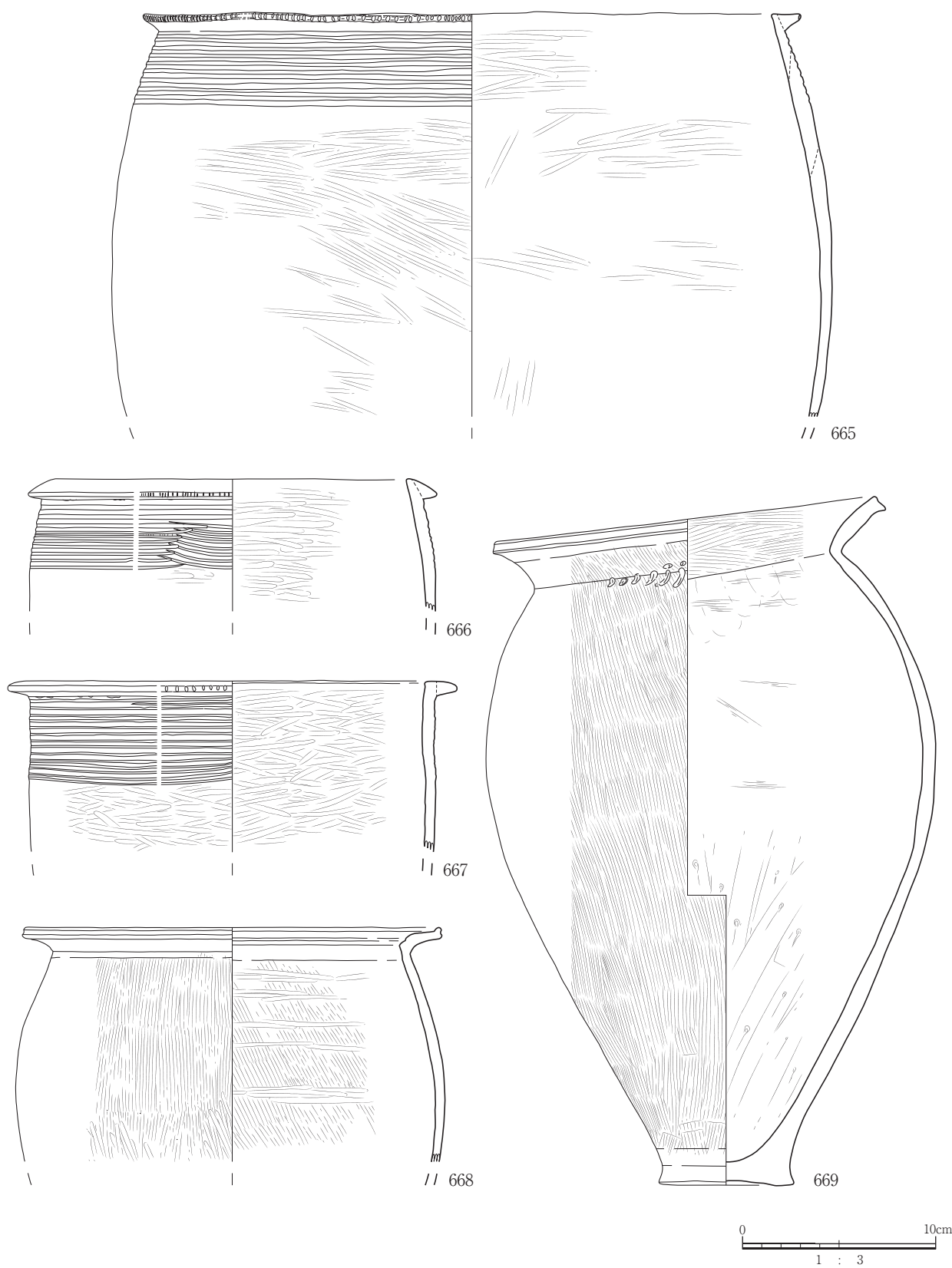


图241 SR05 出土遺物 6



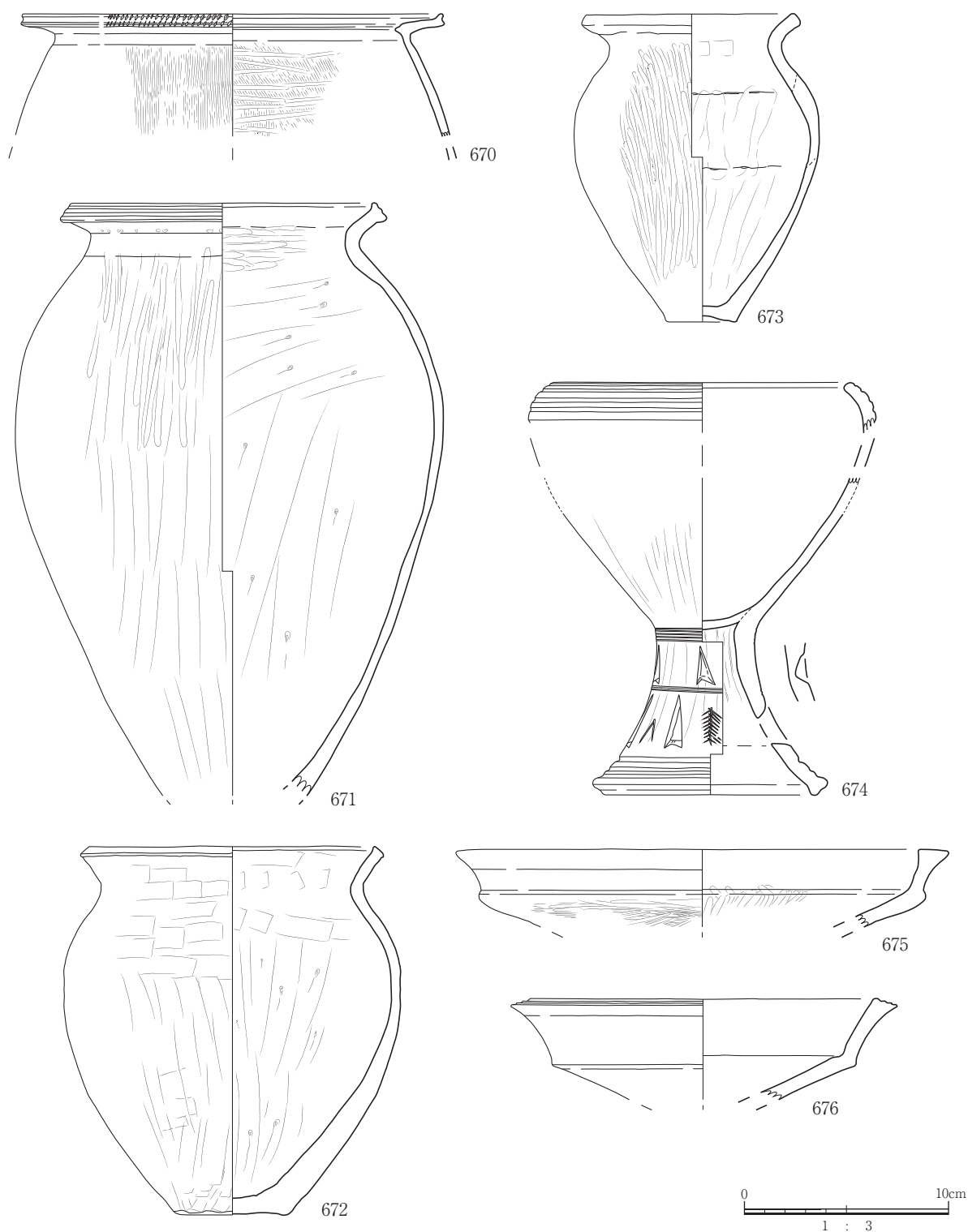


図242 SR05 出土遺物 7

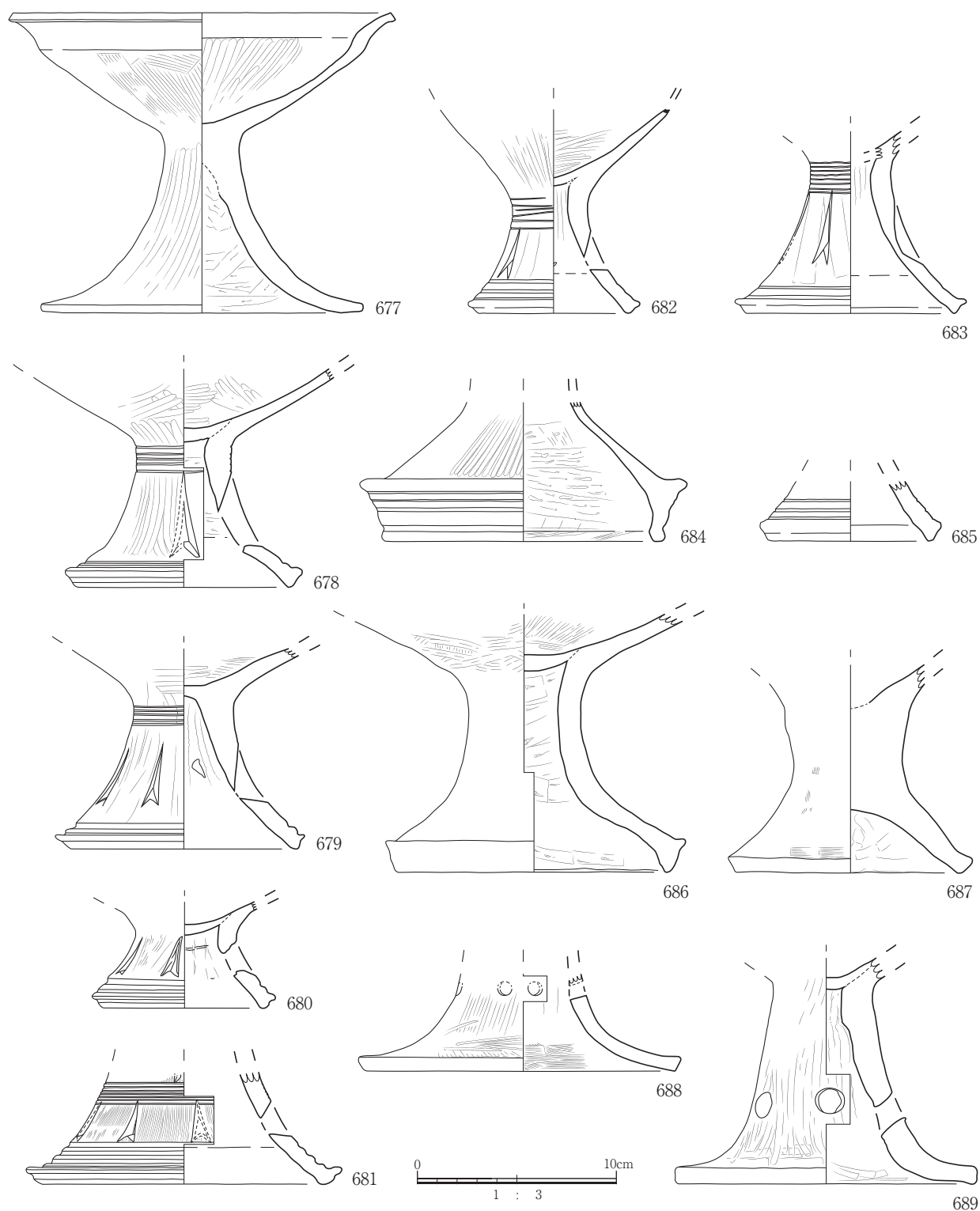


图243 SR05 出土遺物 8

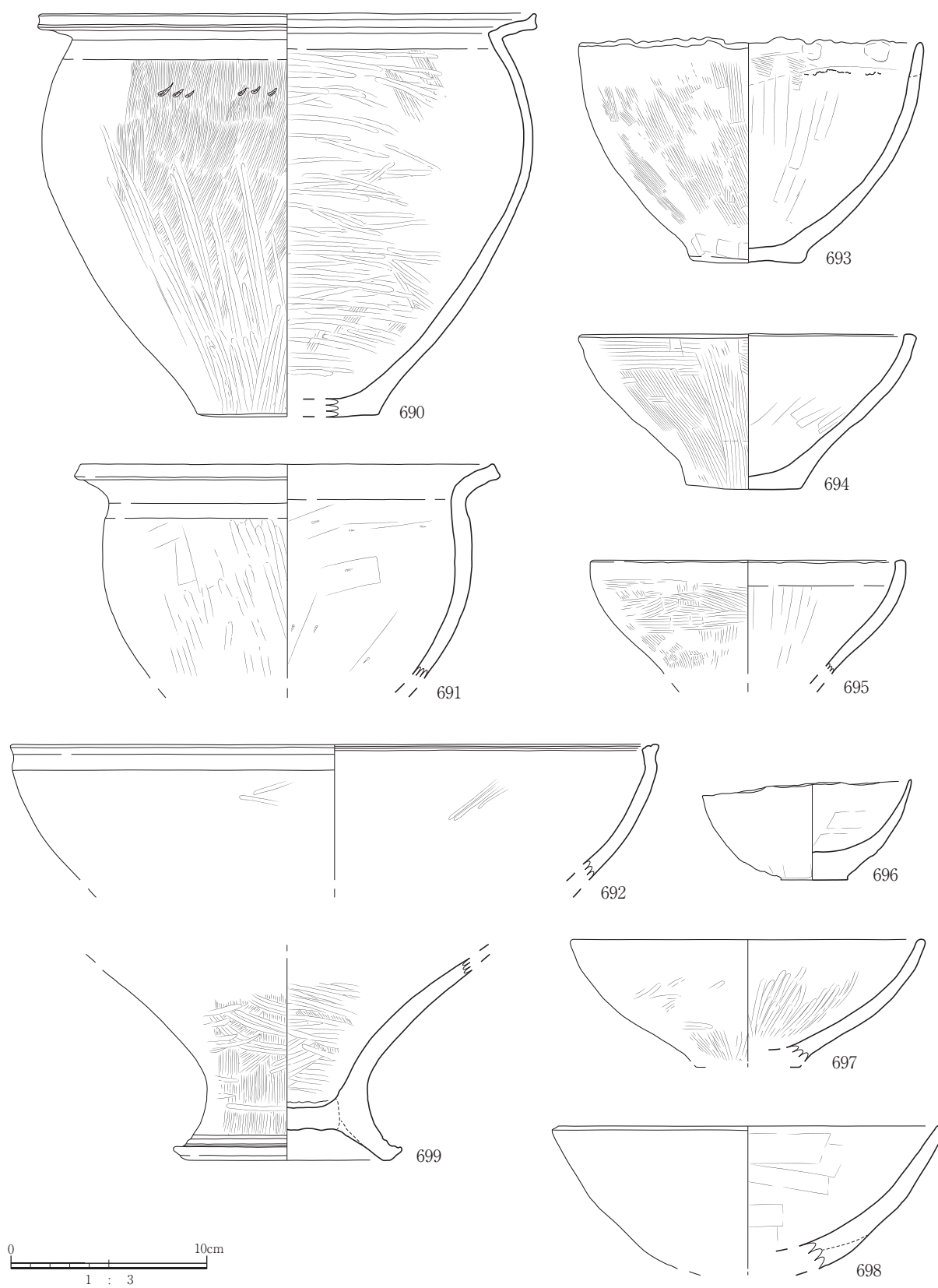


図244 SR05 出土遺物 9

石庖丁で、A面右下部を欠損する。研磨はほぼ全面に及び、紐孔は回転穿孔法による。A面左側縁部には抉りがあるため、右側縁部にも抉りが形成されていた蓋然性が高い。抉りは敲打による可能性があるが、抉りから背部にかけて使用に伴うと推測される摩耗が著しいため、抉りの作出方法は不明である。同様に、背部の調整も敲打によるか研磨によるかの判断は難しい。表面の一部にもコーングロス状の光沢が認められる。刃部先端部が敲打により残存していないため、石庖丁としての機能を失った後に敲打具などに使用されたと考えられる。712は淡緑の緑色片岩製石庖丁で、A面上端部左側と右端部を欠損する。研磨は刃部と背部付近に限られる。紐孔をもたないが、抉りがあったかは不明である。713は層灰岩製の扁平片刃石斧で、体部、基部の稜は明瞭である。丁寧な研磨が全面に施される。石理は刃線方向に直交する。714も層灰岩製の扁平片刃石斧で、A面上部と右側を欠損する。丁寧な研磨がほぼ全面に施される。石理は刃部にほぼ直交する。715は緑色の蛇紋岩の可能性のある石材で、上部から下部にかけて外に広がる平面形を呈する。断面形はやや扁平な楕円形である。下端面を除いて丁寧な研磨が施されるため、元は両刃石斧と推測される。下端面の一部には擦痕が残るため、最終的には磨石として使用されたのだろう。716はサヌカイト製の凹基式石鏃である。717はサヌカイト製のスクレイパーで、A面下端部には細かな調整によって刃部がつくり出されている。718は砂岩製の砥石で下部とA面の裏面を

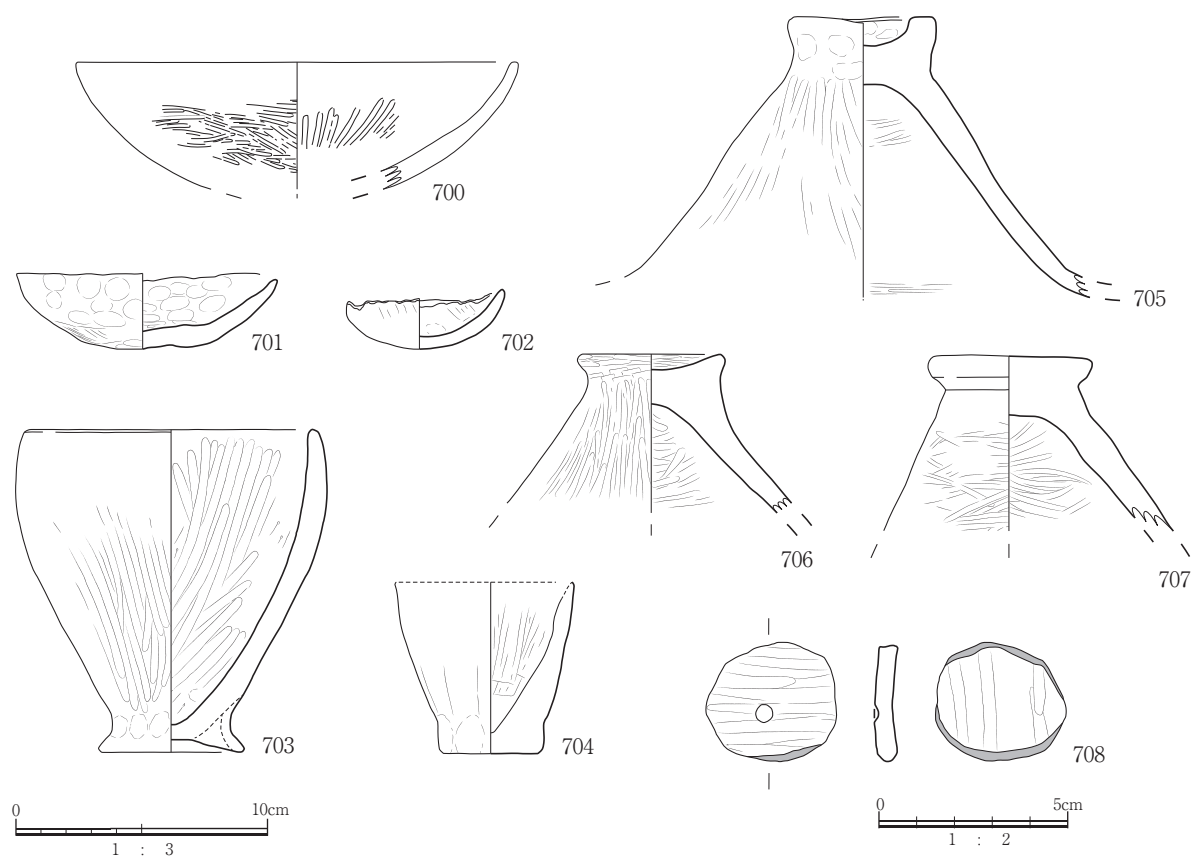


図245 SR05 出土遺物 10

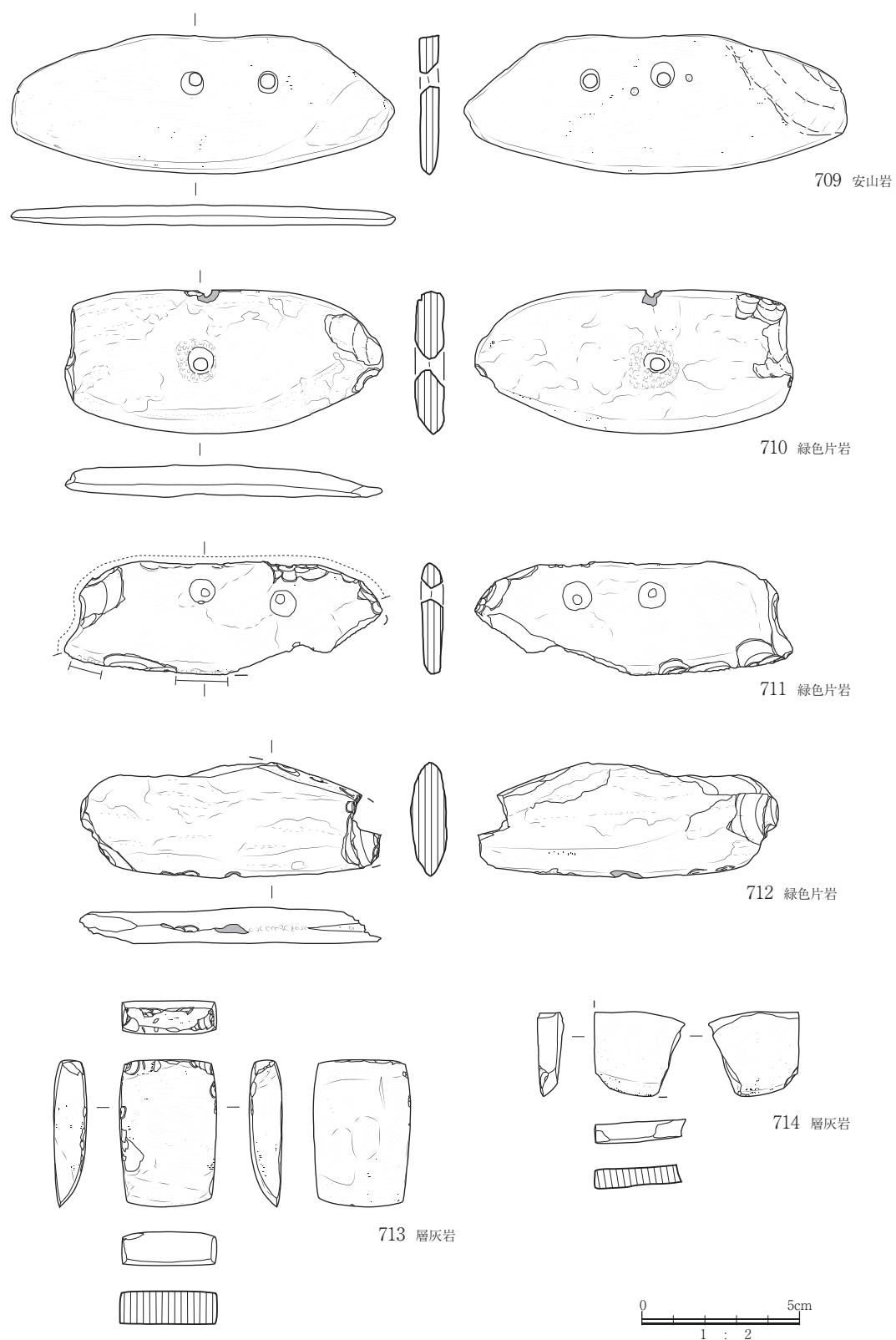


図246 SR05 出土遺物 11

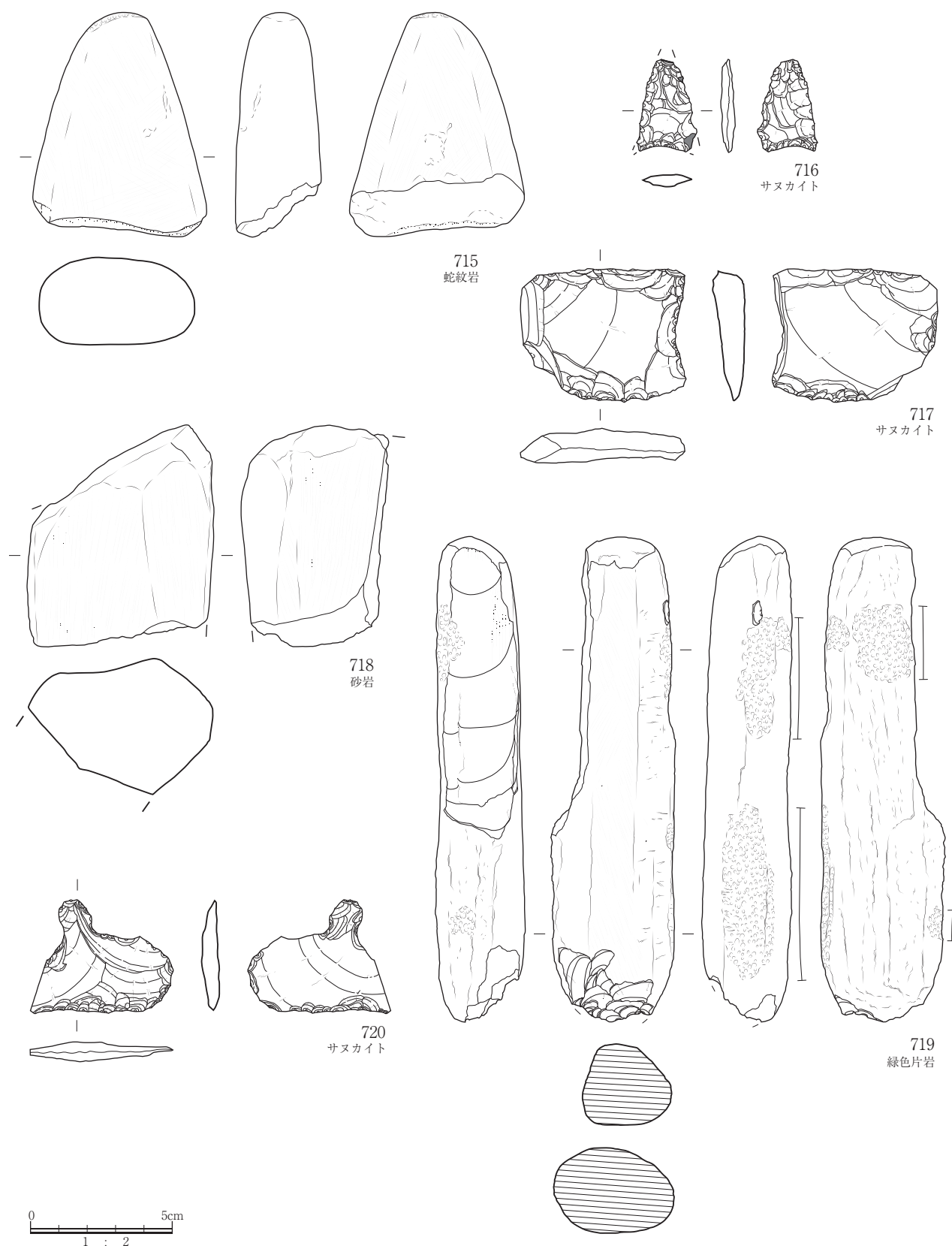


図247 SR05 出土遺物 12

欠損する。本来は柱状であったと推測される。残存部分の3面に擦痕が認められ、A面の広い面は湾曲して窪む。719は濃緑色を呈する緑色片岩製で、B面には研磨痕が残り、A面上部の剥離面の一部にも研磨痕が認められる。その他は大半が自然面で、複数箇所に敲打による凹みがある。下端部は下部からの加撃により剥離している。形状や研磨痕から本来は石棒として使用されたものが、最終的には叩き石に転用されたものと考えられる。720はサヌカイト製の石匙である。

(3)時期 弥生時代終末期(VI-2様式)前後の700～702を含むが、671～673・675・677・691などから弥生時代後期前葉(V-1・2様式)の埋没と考えたい。

## 6 SR06 (4区-SR22)\_浅谷1-A

(1)遺構(図248) SR06は最終的に北へ向かって伸びる流路である。断面写真からは複数層の土層堆積が確認できる。底面には粘質土層があり、その上に砂層とシルト層の互層堆積がみられ、それらの土層を切るように砂層が堆積している。写真から判断する限りでは、SR06の埋没過程はSR01やSR02と類似している。SR07・08に先行する。

(2)遺物(図249) 縄文土器6点、弥生土器54点、古代の土師器7点、古代の須恵器5点、石器2点が出土した。このうち3点を図化した。

土器 721は弥生土器甕である。ヨコナデにより頸胴境の強い屈曲と拡張する口縁端部の凹線文を伴う。頸胴部境には刻目文突帯が施される。722は弥生土器高杯の杯部である。外面の口縁部付近には6条の凹線文が巡る。723は土師質土器杯である。摩滅が顕著だが、底部には糸切りの痕跡が認められる。

(3)時期 721・722から弥生時代中期後葉(IV-2様式)と考えられる。12～14世紀の723は上面を被覆する層に伴うものだろう。

## 7 SR07 (4区-SR23)\_浅谷1-A

(1)遺構(図248) 北東へ向かって伸びる流路である。断面写真からは複数層の土層堆積が確認できる。SR06に後出し、SR08に先行する。

(2)遺物(図249)

土器 724は弥生土器壺で口縁部外面には凹線文を意識したと思われる数条の沈線文が巡る。725は弥生土器鉢で、胴部から屈曲して口縁部が形成される。内面のミガキが放射状に施されている。726も弥生土器鉢だが、底部の形状は不明である。

(2)遺物(図249) 725から弥生時代後期後葉～終末期(V-4～IV-2様式)としておく。

## 8 SR08 (4区-SR24)\_浅谷1-A

(1)遺構(図248) 南から東へ伸びると推定される流路である。規模は全長が残存で2.51m、幅は0.75m以上である。限られた範囲のみの出土であるため全体の様相は不明であるが、西岸の一部と考える。

(2)遺物 遺物は出土していない。



(3)時期 弥生時代後期後葉～終末期(V-4～VI-2様式)のSR07に後出することから、弥生時代終末期(VI-1～VI-2様式)前後としておきたい。

9 SR11 (6区-SR01)\_浅谷1-C/(7区-SR04)\_浅谷1-C/(7区-SR08)\_浅谷1-C/(10区-SR4)\_浅谷1-C/(12区-SR01)\_浅谷1-C

(1)遺構(図250～276) 南西から途中で向きを変えて北東へと伸びる流路で、SR11-②ではSR11-①からの流れと合流する。また、一部が西方向へも分岐するようだが詳細は不明である。長軸方向はN-50° -Eである。全長が残存で132.65m、幅は11.2m～0.95m、最大深度は1.33mである。上流では砂質土を主体としつつ粘質土との互層堆積で、いくつかの単位に分かれると推測される。SR11-②～③では埋没過程が複雑である。SX1周辺では、最終埋没直前でSR-①からの流れと合流しているとみられる。平面的には数度の変遷がみられ、それ以前の埋没過程は不明瞭である。SX1とB・C地点(図276)では水平堆積層より木質遺物が出土しており、遺物の最終埋没時には比較的緩やかな堆積状況であったと推定される。出土した樹種について、B地点ではコナラ属クヌギ節やスダジイ、C地点ではモミ属やヒノキ、コナラ属コナラ節が多いほか、クスノキ科、カキ

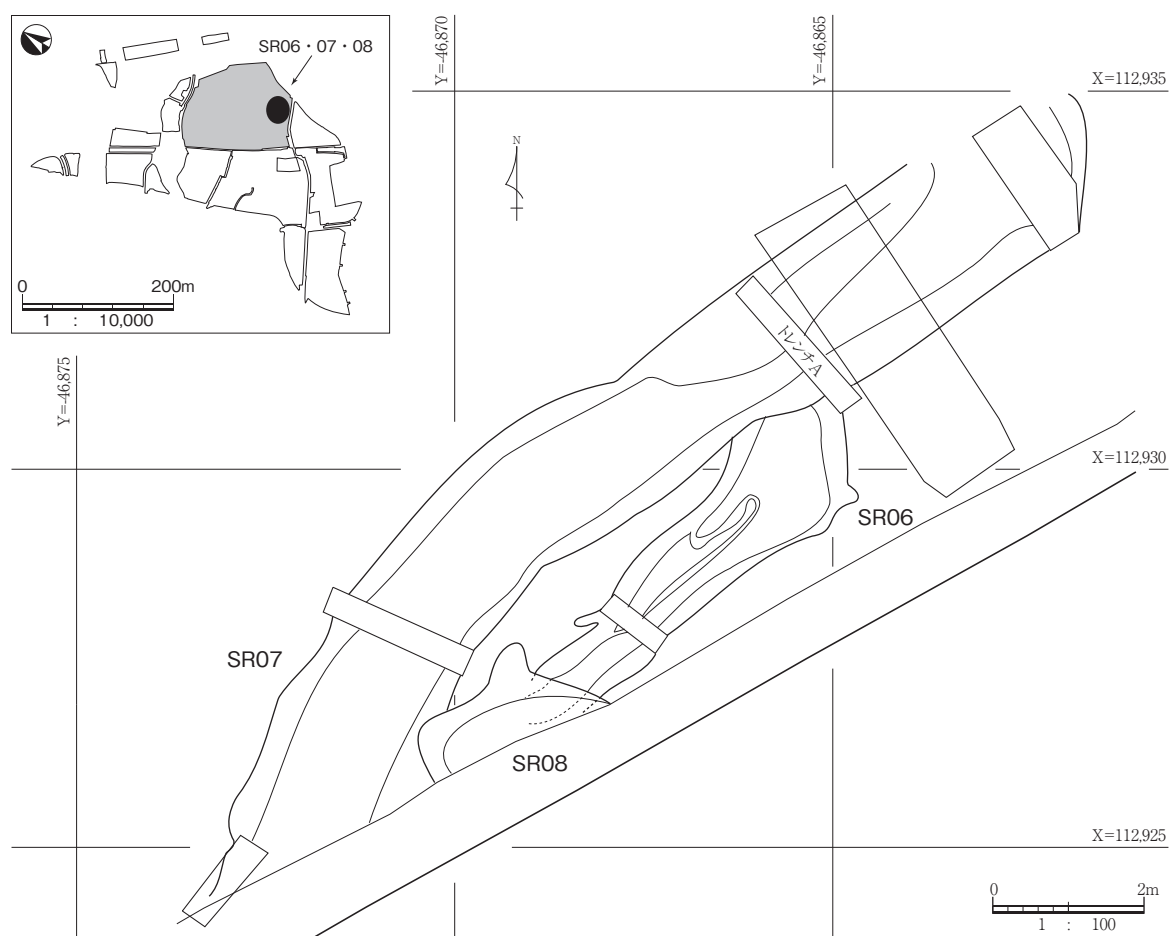
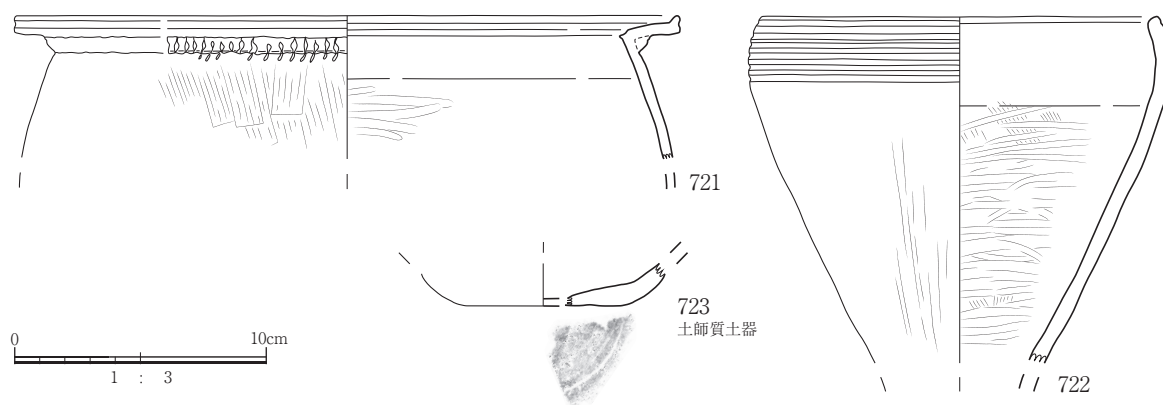


図248 SR06・SR07・SR08 平面

ノキ属、コナラ属クヌギ節、スダジイ、マツ属が同定され(『報告書1』表2参照)、後述するように建築部材が多い。断面q-q'より下流では、砂層による(複数の堆積単位を含む)水平堆積を主体とすることから流水作用を受けつつ比較的緩やかな堆積状況であったと推測される。後述する遺物の一部は下層1～4として取り上げられているが、下層1～4の層位的な関係は不明である。また、板状鉄斧883が流路上層(検出面直下)から出土している。弥生時代後期前葉～中葉のSR27、弥生時代終末期～古墳時代前期のSR29に後出する。

**SR11-SX1(図272～276)** SR11-SX1は9本の丸太で構成されている(『報告書1』109～112)。丸太は長さ120.5～103.3cmで、25～1cmの間隔を開けて並んでおり、本来は南北両方向へさらに列が続いていた可能性がある。9本とも樹種同定がおこなわれ、全てヒノキであった(『報告書1』第4章第5節参照)。丸太は、SR11の北岸斜面に流路中程から肩へ向かって高さを数cmずつ変えながら階段状に並び、最上位の丸太上部と最下位の丸太上部との比高差は50cm程度であった。断面o-o'の22層にブロックを多く含むことから、流路斜面を緩やかな平坦面に整えて丸太を設置した

SR06



SR07

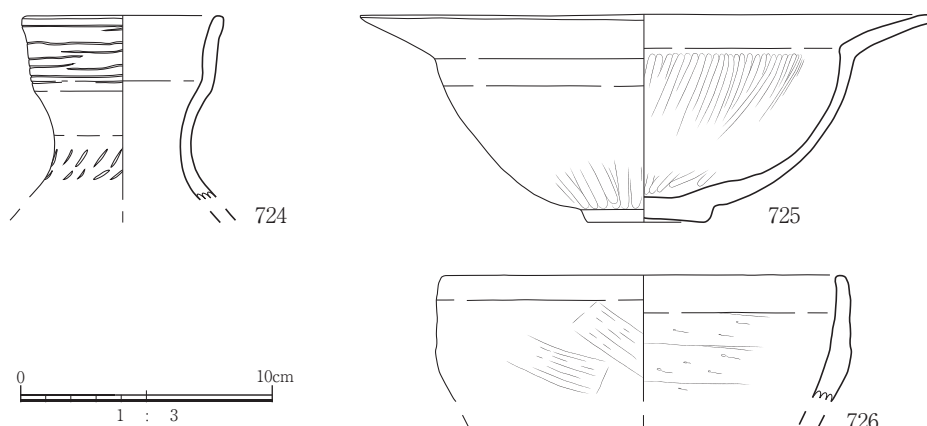


図249 SR06・SR07 出土遺物

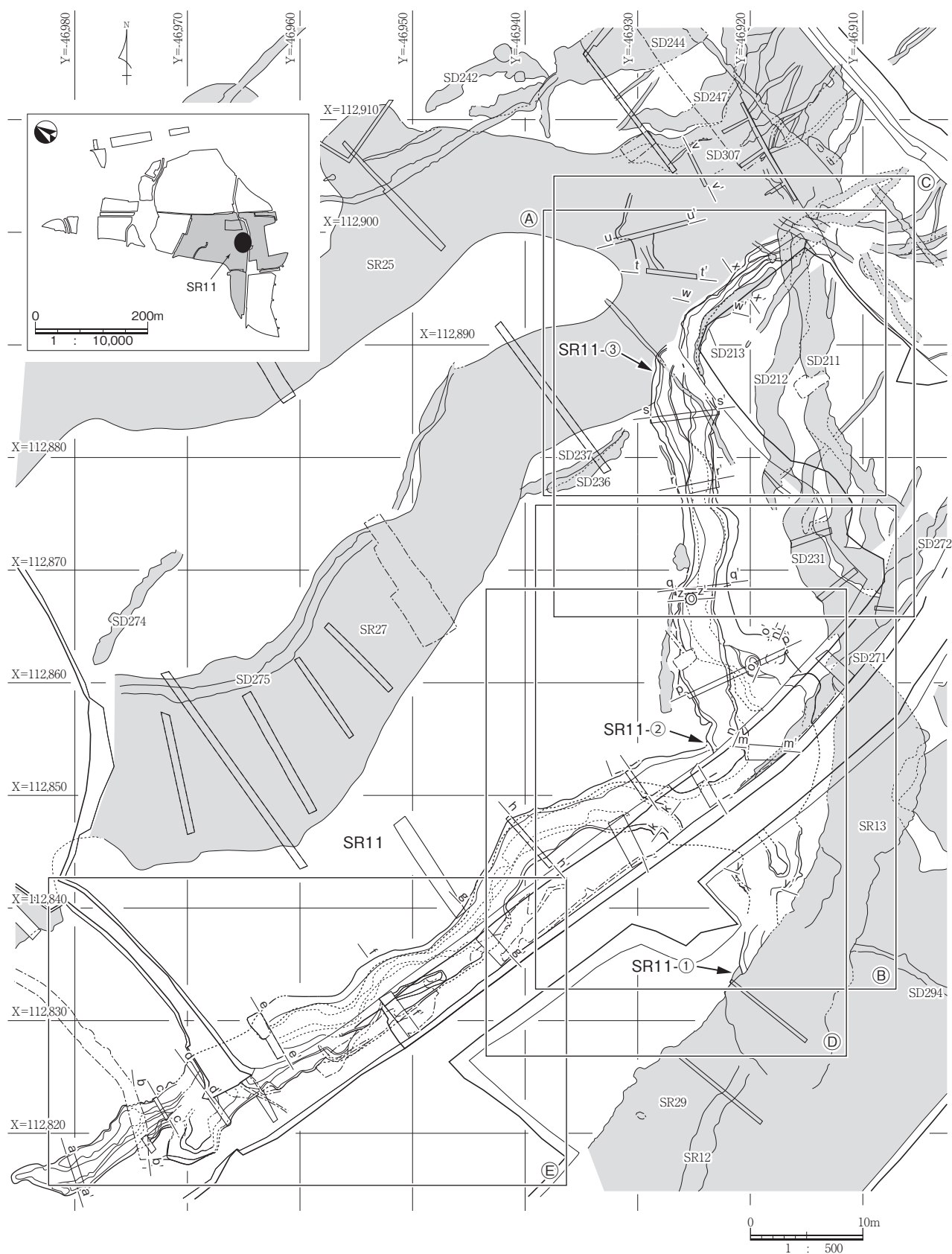


図250 SR11 平面

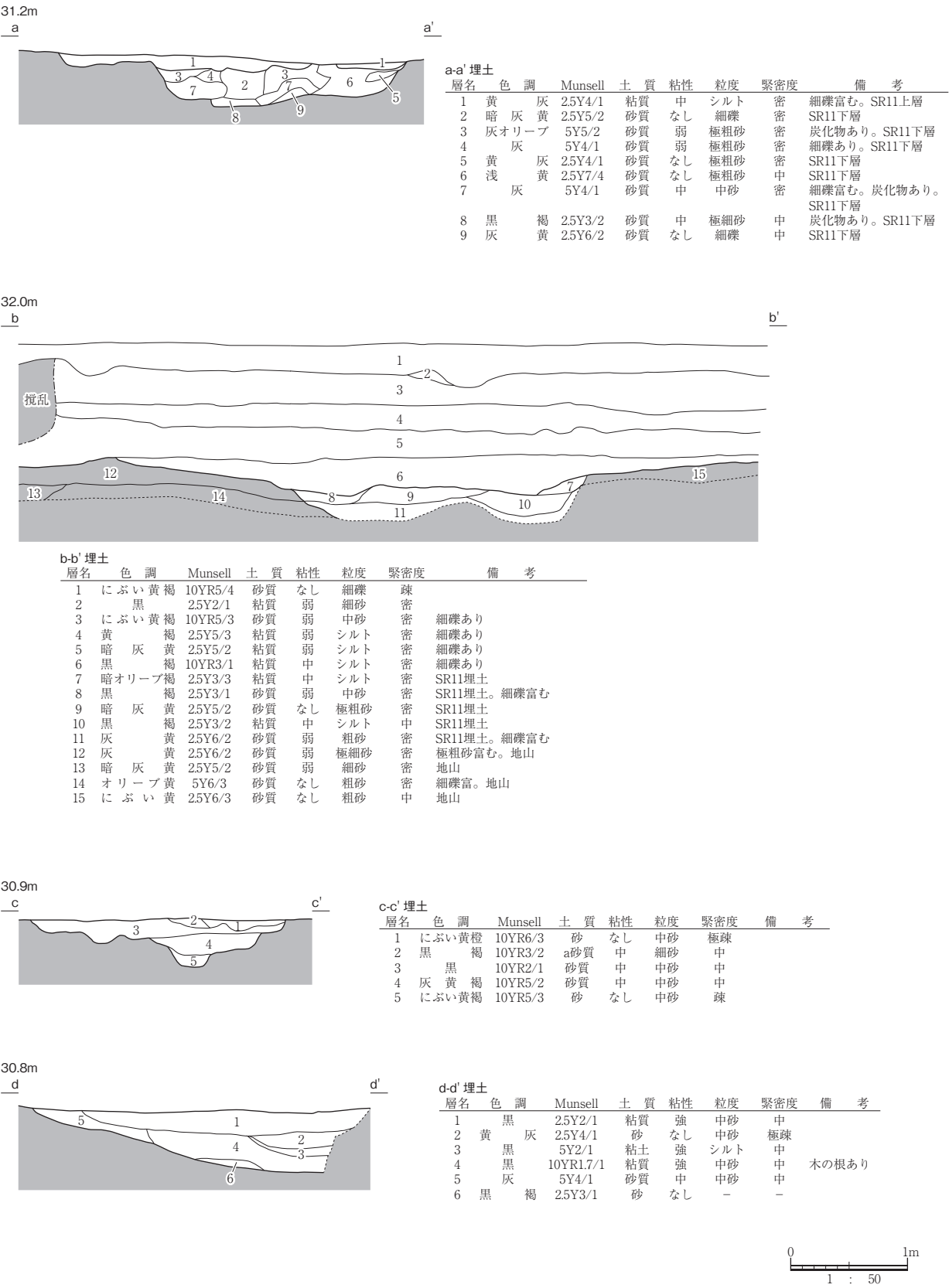


図251 SR11 断面 1

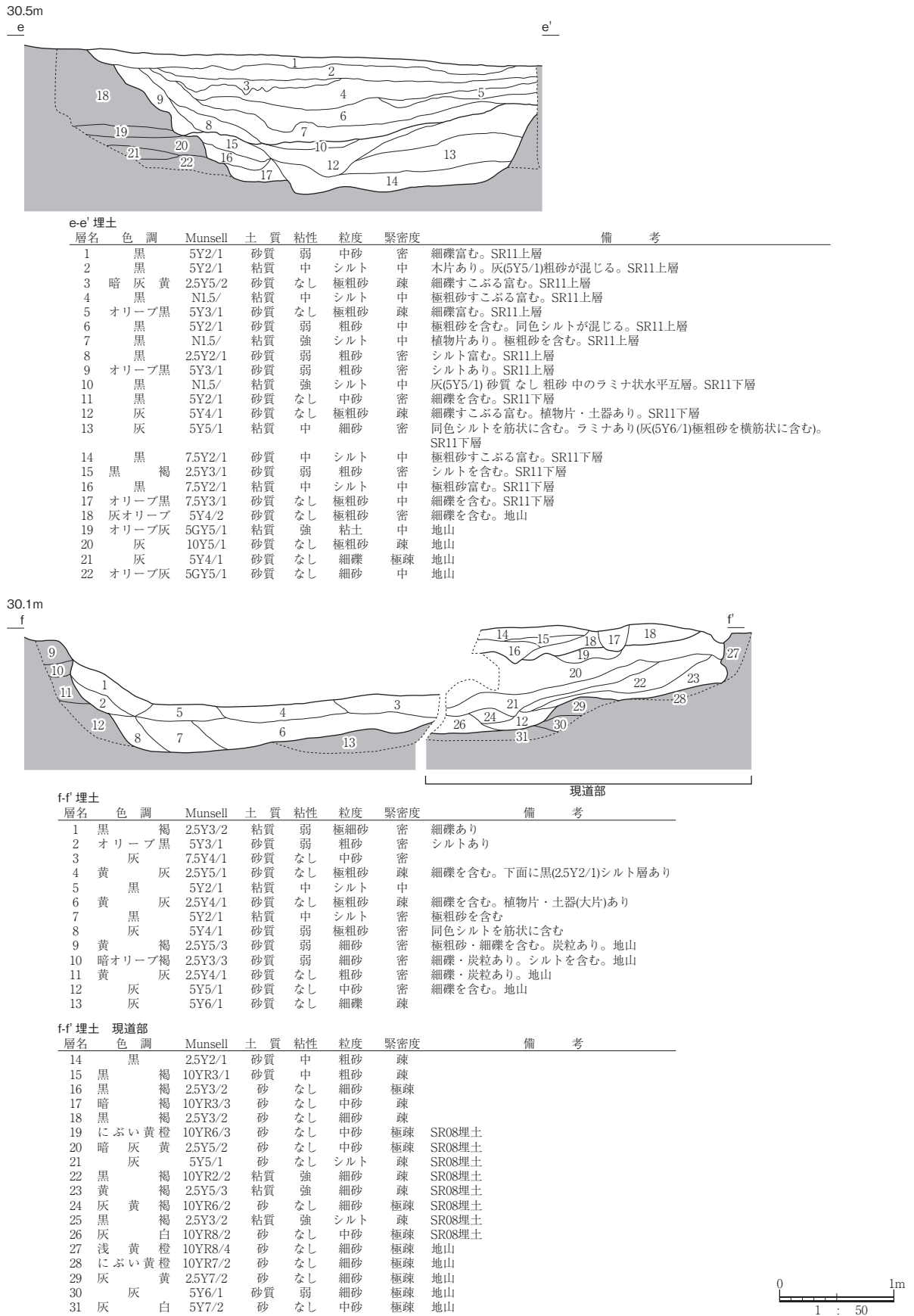
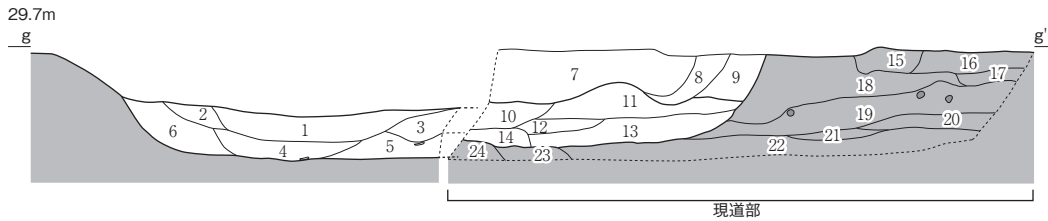
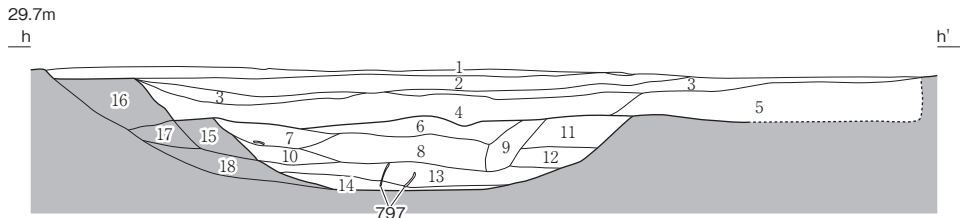


図252 SR11 断面 2



g'埋土								
層名	色	調	Munsell	土 質	粘性	粒度	緊密度	備 考
1	灰		5Y5/1	砂質	なし	極粗砂	中	細礫・ラミナあり。下面にシルト混じり砂礫層の堆積。SR11下層
2	黒		5Y2/1	砂質	弱	中砂	密	シルトを含む。SR11下層
3	オリーブ黒		5Y3/1	砂質	弱	細砂	密	シルトを含む。細礫あり。SR11下層
4	灰		5Y5/1	砂質	なし	極粗砂	中	細礫富む。土器あり。下面にシルト混じり砂礫層の堆積。SR11下層
5	黄	灰	2.5Y5/1	砂質	なし	極粗砂	中	細礫富む。土器あり。SR11下層
6	灰		5Y4/1	砂質	なし	極粗砂	密	細礫を含む。SR11下層

g'埋土 現道部								
層名	色	調	Munsell	土 質	粘性	粒度	緊密度	備 考
7		黒	2.5Y2/1	砂質	中	中砂	疎	SR11上層
8	灰	黄 褐	10YR4/2	砂質	中	中砂	疎	SR11上層
9	灰	黄 褐	10YR6/2	砂	なし	中砂	極疎	下位に5層を筋状に含む。SR11上層
10	灰		5Y4/1	砂	なし	中砂	極疎	SR11下層
11	灰	黄 褐	10YR5/2	砂	なし	中砂	極疎	SR11下層
12	にぶい	黄橙	10YR7/3	砂	なし	粗砂	極疎	SR11下層
13	暗	灰 黄	2.5Y5/2	砂	なし	中砂	極疎	SR11下層。上位に6層を筋状に含む
14	オリーブ	黒	5Y3/1	砂質	なし	細砂	極疎	SR11下層
15	黄	褐	2.5Y5/3	砂質	弱	中砂	疎	地山
16	暗	褐	7.5YR3/4	砂	なし	中砂	極疎	地山
17	にぶい	黄橙	10YR7/3	砂	なし	中砂	極疎	地山
18		灰	7.5Y4/1	砂質	弱	細砂	疎	地山
19	オリーブ	黒	5Y3/2	粘質	強	細砂	疎	地山
20	暗	灰 黄	2.5Y4/2	砂質	強	細砂	疎	地山
21	黄	灰	2.5Y4/1	砂	弱	細砂	疎	地山
22		灰	5Y5/1	砂	なし	細砂	極疎	地山
23	にぶい	黄橙	10YR7/3	砂	なし	中砂	極疎	地山
24	灰	黄 褐	10YR6/2	砂	なし	中砂	極疎	地山



h-h' 埋土								
層名	色	調	Munsell	土 質	粘性	粒度	緊密度	備 考
1	黒	褐	2.5Y3/1	砂質	弱	細砂	極密	細礫あり。SR11上層
2	黒		2.5Y2/1	粘質	中	極細砂	密	細礫あり。SR11上層
3	黒	褐	2.5Y3/2	砂質	なし	極粗砂	疎	細礫富む。SR11上層
4	黒		5Y2/1	粘質	強	シルト	中	SR11上層
5	灰		5Y4/1	砂質	弱	中砂	密	SR11上層
6	暗 灰 黄		2.5Y4/2	砂質	なし	極粗砂	疎	細礫富む。SR11下層
7	黒		2.5Y2/1	粘質	強	シルト	中	土器あり。SR11下層
8	灰		7.5Y4/1	砂質	なし	極粗砂	疎	細礫あり。SR11下層
9	黒		N1.5/	粘質	中	極細砂	中	植物片あり。SR11下層
10	黒		N1.5/	粘質	中	中砂	中	SR11下層
11	灰		10Y4/1	砂質	なし	中砂	密	SR11下層
12	オリーブ黒		5Y3/2	粘質	強	シルト	密	SR11下層
13	灰		7.5Y4/1	砂質	なし	極粗砂	疎	細礫すこぶる富む。SR11下層
14	オリーブ黒		5Y3/1	砂質	中	中砂	中	シルト・植物片を含む。土器あり。SR11下層
15	黒	褐	2.5Y3/1	粘質	中	細砂	密	地山
16	暗 灰 黄		2.5Y4/2	砂質	弱	中砂	密	細礫を含む。地山
17	灰		7.5Y4/1	砂質	弱	細砂	密	シルト・細礫を含む。地山
18	オリーブ黒		5Y3/1	粘質	強	極細砂	密	ラミナあり(灰(7.5Y4/1)粗砂の筋が数本入る)。地山

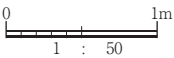
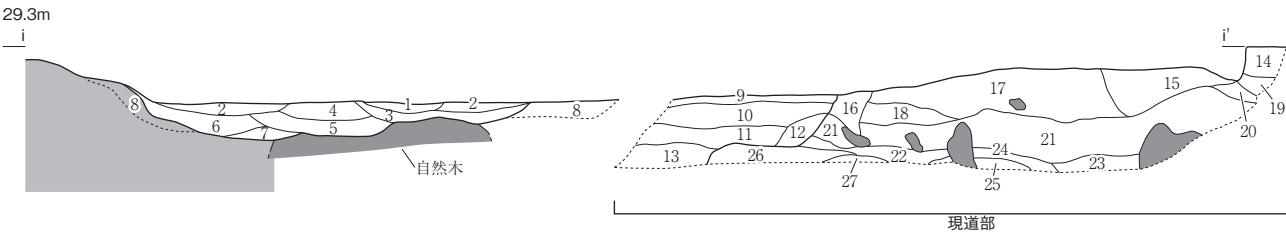


図253 SR11 断面 3

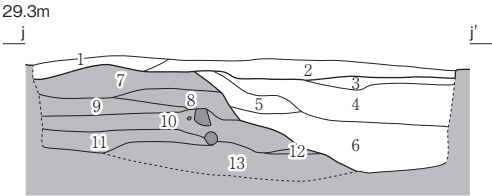


i-i' 埋土

層名	色 調	Munsell	土 質	粘性	粒度	緊密度	備 考
1	黄 灰	2.5Y6/1	砂質	なし	細礫	極疎	
2	黒	5Y2/1	砂質	弱	中砂	中	シルト・細礫あり
3	黒	2.5Y2/1	砂質	中	中砂	中	シルトを含む。植物片あり
4	暗 灰 黄	2.5Y5/2	砂質	なし	粗砂	中	細礫富む
5	灰	5Y4/1	砂質	なし	粗砂	中	細礫・土器(完形に近い)あり
6	黒	2.5Y3/1	砂質	なし	中砂	密	細礫を含む
7	黒	N1.5/	粘質	中	シルト	中	中砂を含む。植物片あり
8	オリーブ黒	5Y3/1	砂質	弱	中砂	密	シルトあり。自然木を含む。地山？

i-i' 埋土 現道部

層名	色 調	Munsell	土 質	粘性	粒度	緊密度	備 考
9	黒 褐	2.5Y3/2	砂	なし	中砂	極疎	SR11下層
10	オリーブ黒	5Y3/1	粘質	強	細砂	疎	SR11下層
11	暗オリーブ	5Y4/3	粘質	強	細砂	疎	SR11下層
12	暗 灰 黄	2.5Y4/2	粘質	強	細砂	疎	SR11下層
13	にぶい黄橙	10YR6/3	砂	なし	細砂	極疎	SR11下層。下位にオリーブ黄(7.5Y6/3)砂を筋状に含む
14	灰	5Y5/1	粘質	中	細砂	疎	
15	灰	5Y4/1	砂質	弱	中砂	疎	中砂を含む
16	黒 褐	2.5Y3/1	砂質	弱	細砂	疎	
17	暗 灰 黄	2.5Y4/2	砂質	弱	細砂	疎	
18	暗オリーブ	5Y4/3	砂質	弱	細砂	疎	
19	にぶい黄橙	10YR7/4	砂	なし	細砂	極疎	下位に褐(7.5YR4/6)細砂を筋状に含む
20	灰	5Y4/1	砂	なし	中砂	極疎	
21	オリーブ黒	-	砂質	中	シルト	疎	
22	暗 灰 黄	2.5Y5/2	粘質	強	細砂	疎	
23	オリーブ黒	5Y3/2	粘質	強	シルト	疎	
24	灰オリーブ	5Y5/2	砂質	強	シルト	疎	
25	灰オリーブ	5Y4/2	砂	なし	細砂	極疎	
26	オリーブ黒	5Y3/2	砂質	中	細砂	疎	
27	灰 黄 褐	10YR6/2	砂	なし	細砂	極疎	



j-j' 埋土

層名	色 調	Munsell	土 質	粘性	粒度	緊密度	備 考
1	オリーブ黒	5Y3/1	砂質	なし	中砂	密	細礫を含む
2	黒	5Y2/1	砂質	弱	中砂	密	シルトを含む。黒褐(2.5Y3/1)粘質 中 極細砂 密のブロック富む
3	黒 褐	2.5Y3/1	砂質	なし	極粗砂	疎	細礫あり。SR11
4	黒	7.5Y2/1	粘質	強	シルト	中	暗灰黄(2.5Y5/2)極粗砂の層と互層状になる部分がある。SR11
5	黒	N1.5/	砂質	弱	中砂	密	細礫あり。SR11
6	オリーブ黒	7.5Y3/1	砂質	なし	極粗砂	密	細礫富む。植物片・土器あり。SR11
7	灰	5Y4/1	砂質	なし	粗砂	密	細礫あり
8	黄 灰	2.5Y4/1	砂質	なし	極粗砂	疎	細礫富む
9	オリーブ黒	7.5Y3/1	粘質	強	シルト	中	
10	オリーブ黒	5Y3/1	粘質	強	シルト	中	木を含む
11	灰オリーブ	5Y4/2	砂質	中	粗砂	中	シルト・木を含む。地山
12	灰	7.5Y4/1	粘質	中	細砂	中	中砂を含む。シルトが混じる。地山
13	灰	7.5Y4/1	砂質	なし	細礫	密	5cm以下の礫すこぶる富む。地山

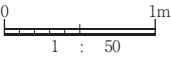
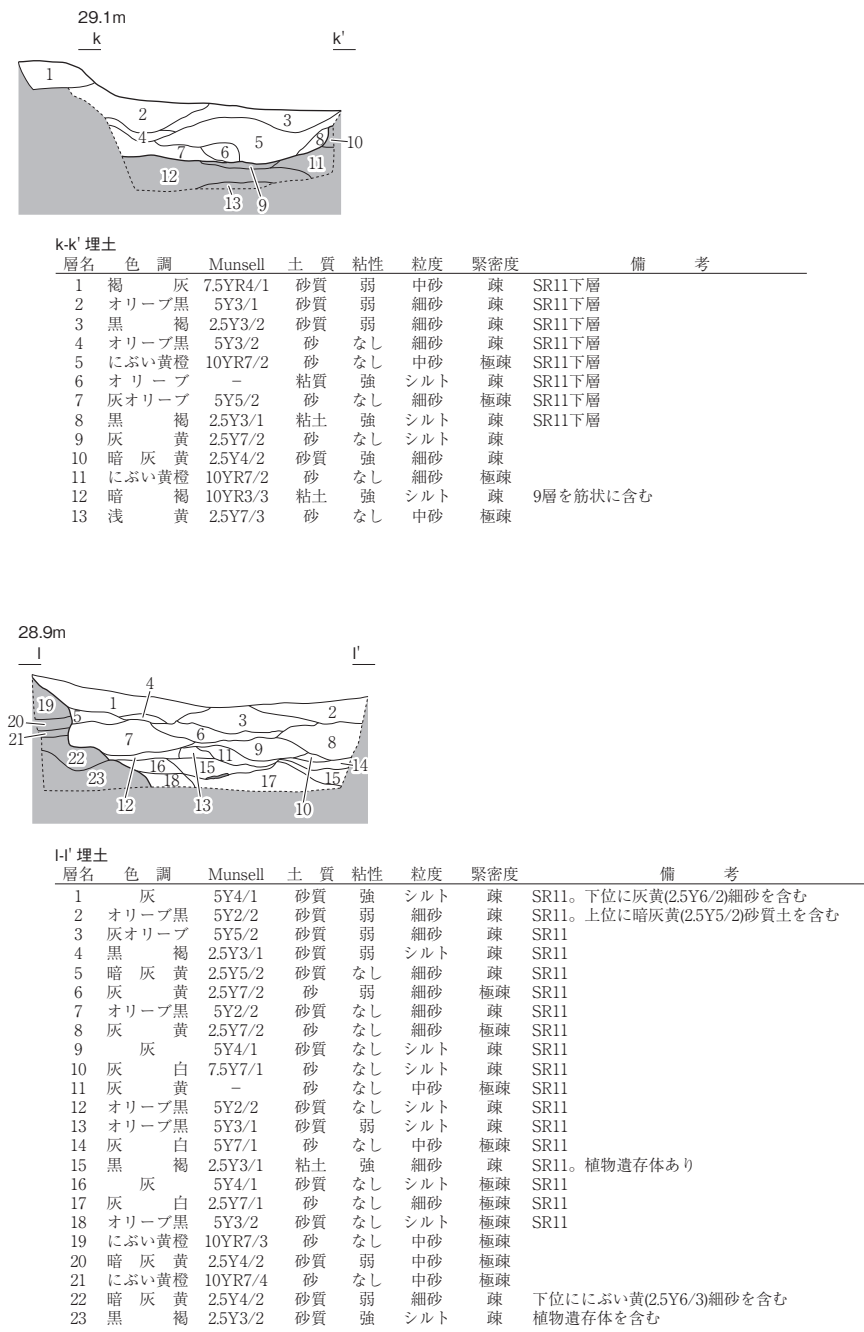


図254 SR11 断面 4





0 1m  
1 : 50

図255 SR11 断面 5



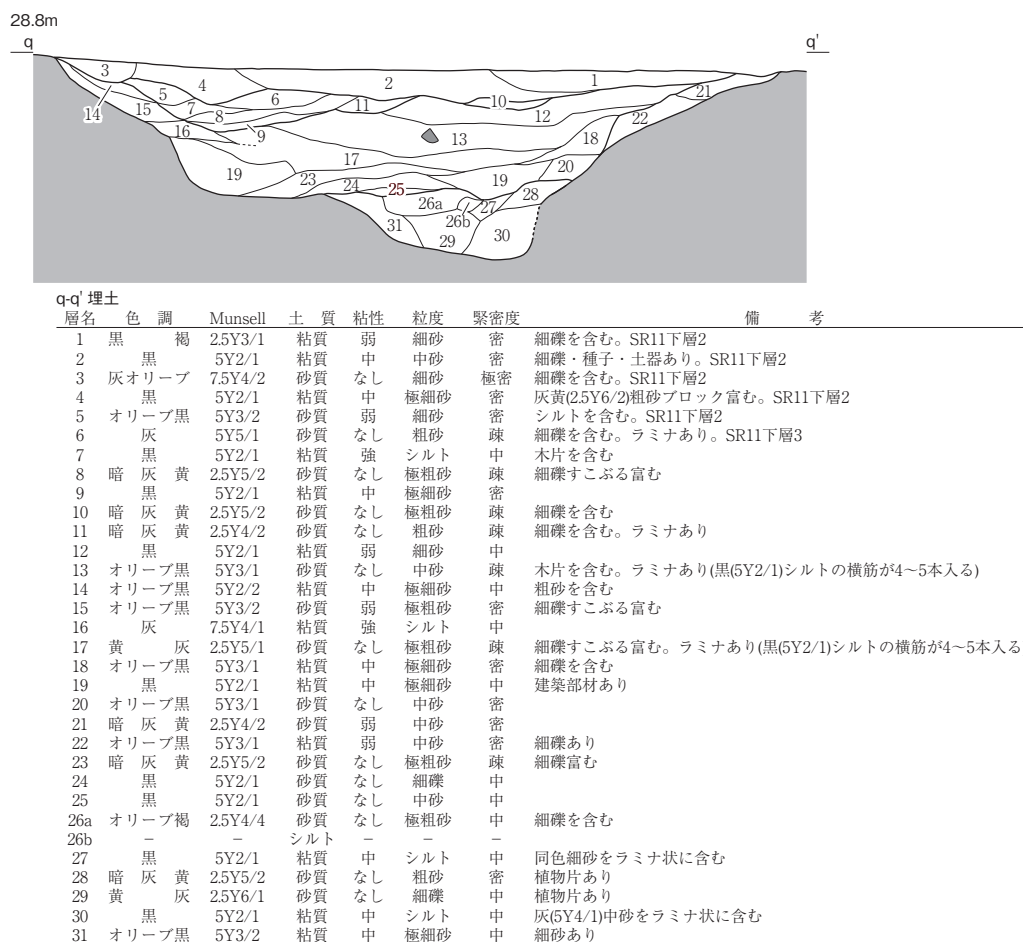
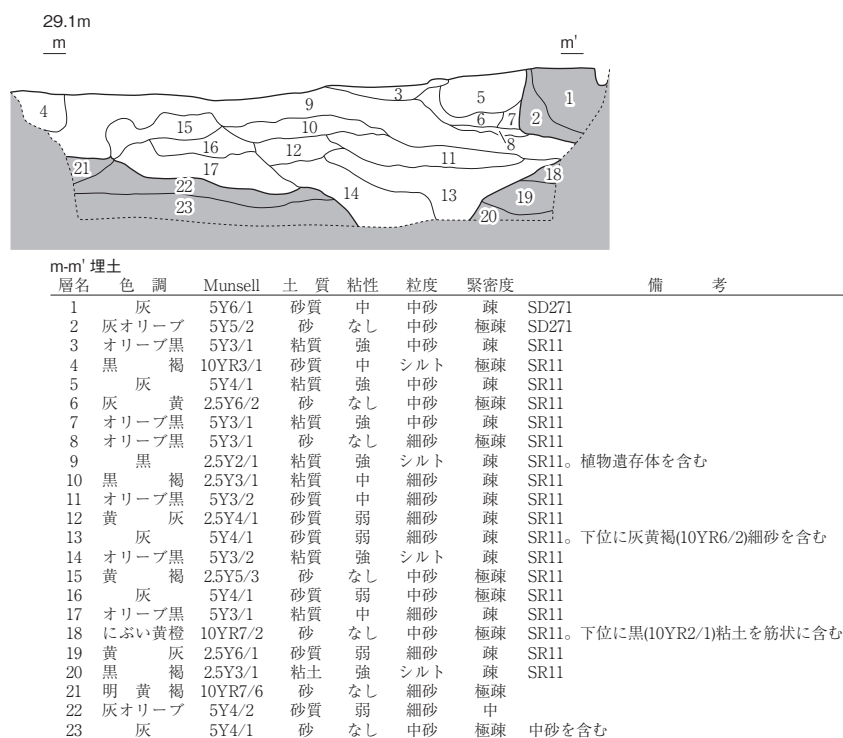


図256 SR11 断面 6

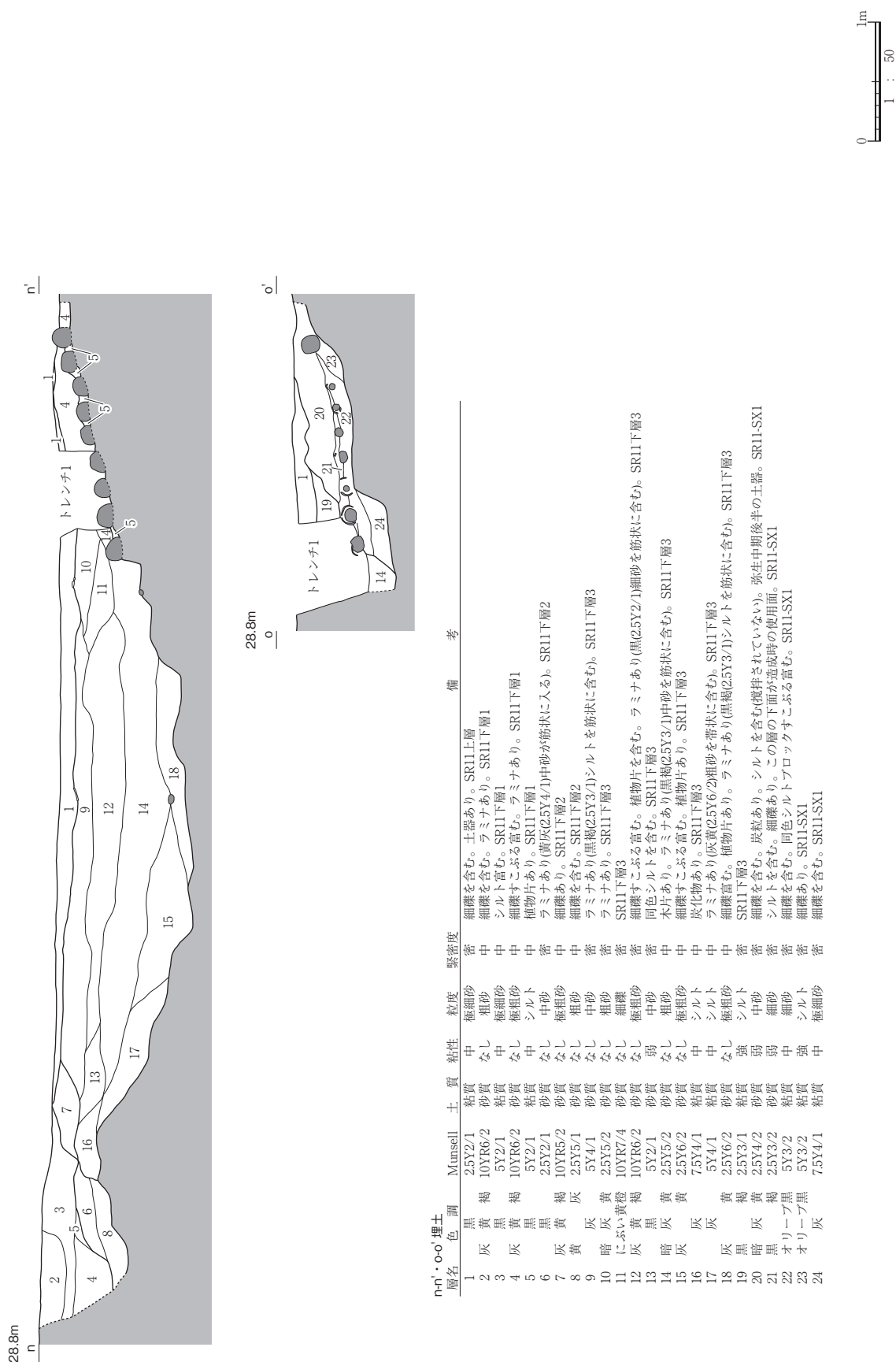


図257 SR11 断面 7